

**「地域スポーツコーディネーター制度」
の導入効果に関する研究**

平成 24 年 3 月

雲南市教育委員会／笹川スポーツ財団

目次

要旨	・・・1
1. はじめに	・・・2
2. 雲南市について	・・・3
(1) 概要	
(2) 主な教育施策	
(3) 地域スポーツコーディネーター制度導入の経緯	
3. 分析（検証）の方法	・・・7
(1) 地域スポーツコーディネーターの活動	
(2) 関係者と地域スポーツコーディネーター本人を対象としたアンケート・ヒアリング結果	
4. 地域スポーツコーディネーターの活動	・・・11
(1) 地域スポーツコーディネーターの特性	
(2) 地域スポーツコーディネーターが受講した研修内容	
(3) 地域スポーツコーディネーターの活動実績	
5. 結果	・・・30
(関係者とコーディネーター本人を対象としたアンケート・ヒアリング結果)	
(1) 同僚教員による評価（アンケート結果）	
(2) 校長・地域関係者による評価（ヒアリング結果）	
(3) コーディネーター本人による評価（ヒアリング結果）	
6. まとめと考察	・・・42
7. おわりに	・・・46

1. はじめに

島根県雲南市は、同県東部の旧 6 町村が平成 16 年に合併して生まれた人口約 4 万人の市である。合併前の平成 14 年に、合併予定の 6 町村の教育長および有識者からなる「教育創造プロジェクトチーム」*を立ち上げ、合併後の雲南市教育の基本方針等について検討し、様々な教育施策を実施してきた。合併後の平成 18 年度より、市独自の制度として「教育支援コーディネーター」*を全 7 中学校に 1 名ずつ配置し、平成 20 年度には国の学校支援地域本部事業を活用して地域人材を「地域コーディネーター」*として全小中学校（28 校）に配置するなど、早くから「学校・家庭・地域」の連携協力による子育てを教育方針の柱の一つとしてきた。

平成 22 年度より、これも市独自の制度として全 7 中学校区に「社会教育コーディネーター」*を 1 名ずつ配置。平成 23 年度からはそのうち 3 名を「地域スポーツコーディネーター」*として、市内の 3 小学校に試験的に導入した。導入の目的は小学校区のスポーツ資源でもある学校施設や社会教育施設を活用した多様なスポーツプログラムの提供、学校体育と社会体育の連携・融合の促進、運動・スポーツを通じた体力づくり推進体制の整備、学校発のスポーツコミュニティ創造の基盤づくりである。

本制度の導入に際し、その効果の検証と改善点の抽出を第三者機関である笹川スポーツ財団に依頼し、同財団は市教育委員会との共同研究として検証にあたった。教育委員会側は、対象校 3 校の校長および同市所属の身体教育医学研究所うんなんとともに「地域スポーツコーディネーター制度調査研究実行委員会」を構成し、研究計画立案、実践面、評価上の助言を仰いだ。同委員会の教育委員会職員以外の構成メンバーは以下のとおりである。

本報告書は、雲南市における地域スポーツコーディネーター制度が、上記の導入目的に照らし、いかなる成果をあげたのかを、関係者およびコーディネーター本人へのアンケート、ヒアリングを通じて検証したものである。今後、雲南市と同様、学校・家庭・地域の連携を通じた児童の豊かなスポーツ環境の整備を検討される自治体、学校関係者の方々に参考資料の一つとして活用いただくことを目指した。

「地域スポーツコーディネーター制度調査研究実行委員会」構成メンバーと主な役割

松本泰治	雲南市立寺領小学校 校長	・・・学校内調整/推進委員
田中晴久	雲南市立西小学校 校長	・・・学校内調整/推進委員
山根 毅	雲南市立掛合小学校 校長	・・・学校内調整/推進委員
鎌田真光	身体教育医学研究所うんなん 研究員	・・・研究計画/評価補助/推進委員
西川喜久子	同	運動指導士・・・実践助言/推進委員

*教育創造プロジェクトチーム、各コーディネーター制度についての詳細は、「2. 雲南市について（2）主な教育施策」（p.4）を参照

2. 雲南市について

(平成 23 年 12 月現在)

(1) 概要

○平成 16 年 11 月に合併（大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田村・掛合町）により発足。

○人口・・・42,507 人

○面積・・・553.4 km²

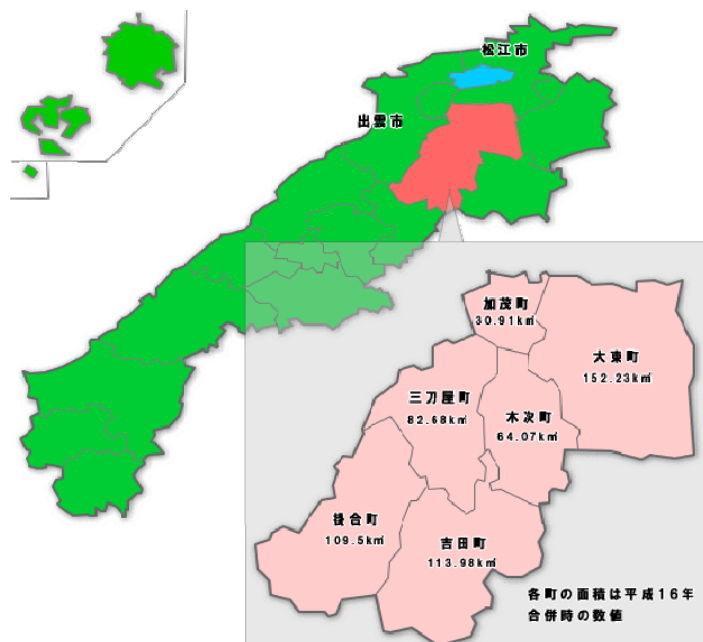
○幼稚園・・・15 園

○小学校・・・20 校（うち分校 1 校）
（平成 22 年度に大東町の塩田小学校が閉校）

○中学校・・・7 校

○公共スポーツ施設・・・35 施設

○交流センター**（旧公民館）・・・29 館



**交流センター・・・社会教育法で「公民館類似施設」と位置付けられる地域の社会教育施設。雲南市では、平成 22 年度よりこの呼称を用いている。

(2) 主な教育施策 ～外部コーディネーター制度を中心に～

島根県雲南市は平成 16 年 11 月、5 町 1 村の合併によって誕生した。

合併に先がける平成 14 年 10 月、6 町村教育長会で「雲南市教育」の骨格づくりに向けた「教育創造プロジェクトチーム」の設置が合意された。各町村の教育長と 1 名ずつの有識者、計 12 名がメンバーとなり、平成 16 年 3 月までに 21 回の会議を重ねた。同プロジェクトチームの答申において、雲南市の教育課題として指摘された内容は「不登校児童生徒への対応」「学力低下・体力低下への対応」「家庭・地域・団体等との連携」など多岐にわたった。

これらの課題に対応し、雲南市に夢と誇りをもってたくましく生きる子どもたちを、地域全体で育てていくための具体的な施策の一環として、平成 18 年度より各小中学校に外部専門人材としての各種コーディネーターの配置を始めた。コーディネーター制度導入は、「学校・家庭・地域が相互に連携協力して子どもたちを育てる」ためのシステムづくりである。

平成 18 年 4 月、全国で初めて教育委員会職員を「教育支援コーディネーター」として市内全 7 中学校に配置した。市職員を学校に配置し、学校教育、社会教育の連携・協力の推進役としたものである。

こうしたシステムづくりは国でも検討され、平成 20 年度からは文部科学省の主導で学校支援地域本部事業がスタートし、学校と地域を結ぶ「地域コーディネーター」が全国の各学校に配置された。まさに、雲南市が教育支援コーディネーターを学校配置した目的と意を同じくするものであり、「学社協働」を実現する方策でもあった。

平成 20 年度には雲南市でも同事業を通じ、市内全小中学校（28 校）に地域コーディネーターを配置し、教育支援コーディネーターの補完と学校からのニーズのコーディネートを行い、学校教育の充実に大きく貢献し、成果を出した。

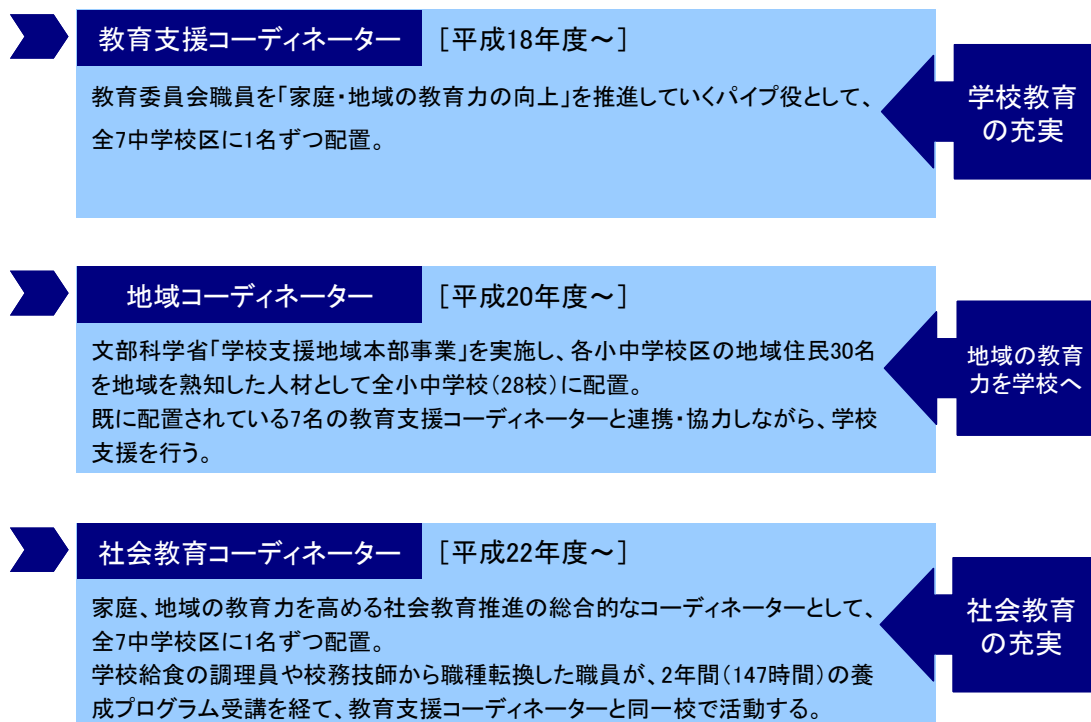
市独自の制度である「社会教育コーディネーター」の学校配置は、学校・家庭・地域の連携、協力が盛り込まれた平成 20 年 6 月の「社会教育法の改正」を背景に、学校支援、家庭教育支援を目的に、子どもの教育活動と大人の学習を融合させた「社会の要請に応える社会教育」の実践を目指して平成 22 年度より開始した。この社会教育コーディネーターの配置により、教育支援コーディネーター、地域コーディネーターと合わせ 2 重、3 重のコーディネーション・システムが確立され、家庭、地域（企業）、行政の教育力と学校の教育力が協働して子どもたちを育てていく環境、仕組みづくりがさらに進んだ。

また、平成 23 年度からは 7 名の社会教育コーディネーターのうち 3 名を地域スポーツコーディネーターとして、市内 3 つのブロックの小中学校にモデル的に配置した。これは、過疎化の進行から近隣に友人を持たず、幼少年期に豊かな自然環境を使った身体活動を行う経験が乏しい、あるいはスポーツ少年団等に加入しなければ運動・スポーツに触れる機会は体育の授業のみという子どもが少なくないといった状況に対応したものである。

地域スポーツコーディネーターの導入は、平成 22 年 8 月に国が示した「スポーツ立国戦

略」の「人の重視」「連携・協働の推進」という基本的な考え方と合致するものであり、スポーツを通じた「新しい公共」づくり＝スポーツコミュニティの創造につながる有効な手法と捉えている。当市の豊かな自然環境を使った身体活動の場づくりやさまざまな運動・スポーツに触れる機会の創出が、地域スポーツコーディネーター導入のねらいである。

図表 1. 外部コーディネーター制度の概要



コーディネーターが引率した多世代交流事業

(3) 地域スポーツコーディネーター制度導入の経緯

地域スポーツコーディネーター制度の導入に至るまでの経緯、期待された主な効果と課題を以下のとおりまとめた。

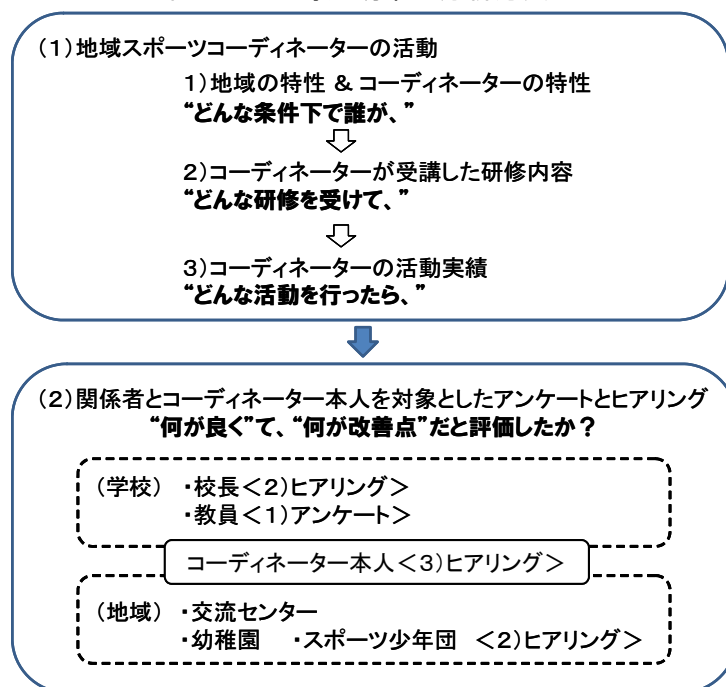
図表 2. 制度導入に至るまでの経緯と課題

年度 平成	経緯	期待された効果と課題(○効果 ●課題)
14	教育創造プロジェクトチーム 設立	
16	教育創造プロジェクトチーム 答申	「不登校児童生徒への対応」 「学力低下・体力低下への対応」 「家庭・地域・団体等との連携」などを指摘
18	教育支援コーディネーター 配置 【対 象】 教育委員会職員7名 【配置先】 市内の全中学校(7校) 【人 選】 教育委員会 (備考) ・雲南市独自の制度 ・コーディネーター7名による情報共有会議を実施(週1回)	(特筆事項) ○ 地域の個人、団体と学校との連携協力が進む ● コーディネーター制度そのものへの理解の浸透(議会、学校、市役所職員) ● 学校側からの要求による配置ではなかったため、学校側の理解が得られにくい ● 市役所全体では人員削減を進めているため、議会や組合の理解が得られにくい ● 人選の難しさ ● 初の試みである教育委員会職員の学校配置に対する、コーディネーター自身の精神的負担 (その他) ● 指揮・命令系統の明確化 ● パソコン・公用車の配置や出張の扱い
20	地域コーディネーター 配置 【対 象】 地域住民30名 【配置先】 市内全小中学校(28校) 【人 選】 各校の校長 (備考) ・文部科学省学校支援地域本部事業による配置 ・社会教育コーディネーター養成研修を先行実施	(特筆事項) ○ 平成18、19年度の教育支援コーディネーターの実績を踏まえた学校側のニーズの高さ ○ 配置後のコーディネーターに対する高い評価
21	社会教育コーディネーター養成研修を先行実施	
22	社会教育コーディネーター 配置 【対 象】 教育委員会職員7名 【配置先】 市内の全中学校(7校) 【人 選】 教育委員会 (備考) ・雲南市独自の制度	(特筆事項) ● 教育支援コーディネーターとの業務の区分が不明確 ● 実績が見えにくく、学校、地域、市役所職員の理解が得にくい
23	社会教育コーディネーター 配置転換 (7中学校→7小学校) 7名のうち3名を「地域スポーツコーディネーター」として配置	

3. 分析（検証）の方法

本研究では、制度導入の効果について下記のとおり分析を行った（図表 3）。

図表 3. 地域スポーツコーディネーター導入効果の分析方法



(1) 地域スポーツコーディネーターの活動

1) 地域および地域スポーツコーディネーターの特性 (p. 11)

まず、地域スポーツコーディネーターが配置された3つのブロックの特徴と合わせて、3人の地域スポーツコーディネーターについて、経歴など基本的な情報を整理し、どのような特性をもった人材がコーディネーターとして望ましいか考察する材料とした。

2) 地域スポーツコーディネーターが受講した研修内容 (p. 12)

地域スポーツコーディネーターが身につけるべき知識・技術などを考察するために、平成21年度より受講していた事前研修も含めて、研修内容をまとめた。

3) 地域スポーツコーディネーターの活動実績 (p. 14)

各地域スポーツコーディネーターは、9月～3月の間、毎日、活動の実績として学内外での打合せ・学内外での行事や会議等への出席・校内の環境整備など、自身の活動内容を日報に記録した。（図表 4. 地域スポーツコーディネーターの日報）その後、年度末に日報の記録をもとに集計を行い、地域スポーツコーディネーターの活動がどのようなもの（質）で、どのくらいの業務（量）があったのかを明らかにした。

図表 4. 地域スポーツコーディネーターの日報

地域スポーツコーディネーター日報		雲南市教育委員会	
10	月	5	日 水 曜日
打合せ			
1	リサイクルプラザ	と 健康・体力づくり	について 電話 で 1 回
2	島根県キャンプ協会	と スポ少事業	について 電話 で 1 回
3	琴引きフォレストパーク	と 健康・体力づくり	について 電話 で 1 回
4	交流センター職員	と 交流センター事業	について 電話 で 1 回
5	交流センター職員	と 健康・体力づくり	について 学外 で 1 回
行事・会議等への出席			
1	健康・体力づくり		1 回
2			回
3			回
資料作成及び補助			
1			に関する資料作成 件
2			に関する資料作成 件
3			に関する資料作成 件
環境整備			
1			に関する環境整備 件
2			に関する環境整備 件
3			に関する環境整備 件
その他			
特記事項 (質的な内容 例: 校長先生へ〇〇を提案、地域住民の声を〇〇に伝達など どんなことでも)			
紙芝居用自転車ゲット！リサイクルプラザより連絡あり！ 島根県キャンプ協会さんへ返却の連絡→7日に決定 琴引きフォレストパークへ連絡→スキー場の貸切の件 交流センターよりTEL→印鑑の件 交流センター、幼稚園と10/26世代間交流について打合せ→児童の散策コースの決定。実施時間などについて話し合い。天殿地域・東大谷地域周辺を3人で下見。			

(2) 関係者と地域スポーツコーディネーター本人を対象としたアンケート・ヒアリング結果

1) 同僚教員による評価（アンケート） (p. 30)

地域スポーツコーディネーターが配置されることによるメリットや今後に向けての課題を明らかにするため、まず、地域スポーツコーディネーターの配置された学校の教員（校長を除く）を対象に、2月にアンケート調査を行った。質問項目は、制度の目的に対する理解、外部の専門人材導入制度の利点・改善点、コーディネーター本人の活動評価・改善点などである。教員の率直な意見を引き出すために、無記名での回答とし、アンケートの集計は第三者機関である笹川スポーツ財団が行う旨をあらかじめ伝えた。対象者40人中、40人の回答が得られた（回収率100%）。

2) 校長・地域関係者による評価（ヒアリング） (p. 37)

同僚である教員を対象としたアンケートと合わせて、関係者に対してヒアリングを行った。対象者とその内容は下表のとおりである。

図表 5. ヒアリング対象者

- | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・ 校長（全3校）・ 交流センターのセンター長もしくは主事（全3ブロック）・ 隣接する幼稚園園長および主任教諭（西小・寺領小）・ 地域のスポーツ少年団指導者（掛合小）・ 地域の老人クラブ会長（寺領小） |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

ヒアリングは、平成23年2月に、雲南市教育委員会の職員2名（社会教育課長・社会教育主事）によって行われた。半構造化インタビュー法（事前に大まかな質問事項だけは決めておき、回答者の答えに応じてさらに詳細に質問を進めていく方法）の形式をとり、質問内容は教員を対象としたアンケートと同様、制度の目的に対する理解、外部の専門人材導入制度の利点・改善点、コーディネーター本人の活動評価・改善点などについてであった。なお、各学校の校長については、追加でコーディネーターが受講した研修内容と現在の能力についても聞きとりを行った。ヒアリング中の対象者の発言については、ヒアリング実施者2名とは別の教育委員会職員が同席し、随時パソコンに打ち込み、記録した。

その後、ヒアリング結果の分析として、記録をもとに第三者である笹川スポーツ財団がキーワードの抽出、発言内容のカテゴリ化などを行った。最後に、分析内容とヒアリング時の内容が食い違っていないかなどの確認を雲南市教育委員会と笹川スポーツ財団が共同で行った。

3) 地域スポーツコーディネーター本人による評価（ヒアリング）（p. 38）

活動の主観的な評価として、地域スポーツコーディネーター本人を対象としたヒアリングも行った。ヒアリングは、平成 23 年 2 月に笹川スポーツ財団の職員 1 名によって行われた。半構造化インタビュー法の形式をとり、質問内容は、制度の目的に照らした自身の達成度、自身の活動の改善すべき点、制度の改善すべき点などについてであった。ヒアリング中の対象者の発言については、ヒアリング実施者 1 名とは別の笹川スポーツ財団職員が随時パソコンに打ち込み、記録した。

その後、ヒアリング結果の分析として、記録をもとに笹川スポーツ財団がキーワードの抽出、発言内容のカテゴリ化などを行った。



コーディネーターが作成した校内「遊びマップ 2011」



地元トップアスリートとの交流プログラム

4. 地域スポーツコーディネーターの活動

(1) 地域スポーツコーディネーターの特性

コーディネーター3名の内訳は、男性2名、女性1名でありいずれも年齢は30～40代であった。3名とも平成21年度に学校校務技師から社会教育コーディネーターに職種転換した。3名のうち2名は担当校区内に在住している。いずれも学生時代に何らかの運動部活動に所属した経験をもつ。

図表 6. 地域スポーツコーディネーターが配置された3ブロックの特性

		掛合小学校	寺領小学校	西小学校
		西部ブロック(旧掛合町)	中部ブロック(旧木次町)	東部ブロック(旧大東町)
各ブロック の 特徴	人口	3,439人	1,669人	3,993人
	面積	109.5km ²	34.79km ²	25.60km ²
	人口密度	31.40人/km ²	47.97人/km ²	155.97人/km ²
	高齢化率	36.64%	34.63%	25.47%
	地勢	中山間地	中山間地	中山間地
各校の 特徴	児童数	160名	67名	169名
	教員数	16名	13名	15名
	特徴的な活動	相撲、太鼓	食に関する体験活動	アスレチックコース(校内施設)を活かした体育活動

平成23年12月現在



校内に設置されたアスレチック施設での活動

(2) 地域スポーツコーディネーターが受講した研修内容

地域スポーツコーディネーターや他の社会教育コーディネーターは学校校務技師からの職種転換であったため、コーディネートに関する資質や能力は十分ではなかった。そこで、島根大学、島根県教育委員会社会教育課、生涯学習センター（現 東部社会教育センター）、三瓶青少年交流の家などと連携を図り、雲南市の社会教育を担う職員を養成するため、平成23年度の導入に先んじて、平成21年度および22年度に事前研修を実施した。また、着任後の平成23年度中にも以下の研修を実施した。

図表7. 地域スポーツコーディネーターが受講した研修

【事前研修（平成21年度）】

回	テーマ(学習主題)	時間	開催日
1	社会教育担当職員に対する雲南市の思いを知ろう	1	5月29日
	生涯学習社会の実現に向けて何ができるだろうか	1	
	社会教育で育てる力を考えてみよう(雲南市が目指す理想の社会教育)	1	
		0.5	
2	学校教育の現状と学社融合(学社融合論)の必要性を考えよう	2	6月18日
	学校におけるコーディネーターの実際と学校教育における課題は何だろうか	2	
3	家庭教育支援の必要性	1.5	7月8日
	家庭教育支援の実践に学ぼう	3	
4	ボランティア活動の意義について考えよう	5	8月11日
5	子ども理解①	2	8月20日
		2	
6	子どもとの関わり方	2	9月11日
7-1	雲南市での平和教育について理解しよう①	7	9月13日
8	誰にでも分かる人権教育	1.5	9月28日
7-2	雲南市での平和教育について理解しよう②	1.5	
9	まちづくりの実践に学ぼう	3	10月21日
10	地域ニーズの把握	6	11月9日
11	公民館活動に参加しよう(公民館実習)	3	11月21日 ～1月31日
12	学習プログラム	9	12月10～11日
13	これからの社会教育	1.5	2月27日
14	子ども理解②	2	3月3日
	小計	57.5	

【事前研修 (平成 22 年度)】

回	テーマ(学習主題)	時間	開催日
15-1	自然体験活動を実際にやってみよう	13	8月23～24日
18-1	リスク管理と危機管理	1	
16	チラシ作成技術	6	9月22日
17	地域課題の把握	6	9月30日
19-1	青少年教育プログラム	5	10月16～17日
		22	
		1.5	
18-2	情報管理とプライバシー保護	1.5	10月22日
19-2	青少年教育プログラム②	6	11月9日
15-2	自然体験活動の意義を知ろう	1.5	12月3日
20	これからの社会に求められる人材と教育の役割「グローバル化と日本の教育」	1.5	12月10日
21	家庭教育支援プログラム	2.5	12月14日
22	事業計画と事業評価「雲南市に必要な人材と教育の役割」	2	1月17日
23	学校支援地域本部事業先進事例研修	2	2月3日
19-3	青少年教育プログラム③	6	2月11日
16-2	チラシ作成技術 Part2	6	2月22日
19-4	青少年教育プログラム④	6	2月27日
		小計	89.5

【着任後の研修 (平成 23 年度)】

回	テーマ(学習主題)	時間	開催日
1	親学プログラム養成講座 東部社会教育研修センターにおいて、学校・家庭・地域を「つなぐ」視点や手法を学ぶため、「司会者」「支援者」「道化役」など複数の役割を演じる推進役としての資質について受講。	12	8月26～27日
2	県小学校体育研究会 寺領小学校で行われた学校体育研究会に参加し、子どもが抱える健康・体力づくりの課題や保護者もニーズを把握する。	8	11月8日
3	先進地視察 NPO法人おやべスポーツクラブ事務所(富山県小矢部市)、NPO法人新湊カモンスポーツクラブ事務所(同 射水市)において、学校・家庭・地域を「つなぐ」視点や手法、「コーディネート」の技術・方法を学ぶ。	5	11月10～11日
4	コミュニケーション実践講座 東部社会教育研修センターにおいて、学校・家庭・地域を「つなぐ」視点や手法、他者とのコミュニケーションを深める「姿勢」や「考え方」を学ぶ。	8	11月16日

【注】平成23年度は、「A. コミュニケーション」「B. 課題把握、分析能力」「C. 円滑化能力」の3つの能力の向上を目的に上記の研修を受講した。

(3) 地域スポーツコーディネーターの活動実績

要旨

地域スポーツコーディネーターの活動記録のうち、概要を「年間記録（4月～3月）」（図表 8）として、詳細を「月間記録（10～1月）」（図表 9）としてまとめ、業務内容の把握につとめた。月間記録は、特に運動・スポーツ関連の行事やプログラムの増える10月からの4ヶ月間の記録を対象とした。

年間記録について

コーディネーター3名が年間を通して関わった事業数は164事業であり、一人平均では54事業となった。（端数切り捨て）また、表中には示さなかったが、記録をとる上ではコーディネーターが関わった事業をそれぞれ、「主に学内で行われる健康・体力づくり関連事業」「主に学内で行われる健康・体力づくりに関連しない事業」「主に学外で行われる健康・体力づくり関連事業」「主に学外で行われる健康・体力づくりに関連しない事業」に4分類して集計を行った。

その結果、3名が関わった164事業は以下のとおり分類された。

1. 「主に学内で行われる健康・体力づくり関連事業」 …… 25事業（15.2%）
2. 「主に学内で行われる健康・体力づくりに関連しない事業」 …… 15事業（9.2%）
3. 「主に学外で行われる健康・体力づくり関連事業」 …… 43事業（26.2%）
4. 「主に学外で行われる健康・体力づくりに関連しない事業」 …… 81事業（49.4%）

年間の活動をまとめると、学外で行われる事業への関わりが圧倒的に多く、コーディネーターが外部との接触を頻繁に行ったことがわかる。健康・体力づくりに関連する・しないでは、関連しない事業への関わりが関連する事業の約1.5倍となった。



コーディネーターが企画した放課後教室での1コマ

図表 8. 地域スポーツコーディネーターの活動記録（年間）

<掛合小学校（上半期 4月～9月）>

	事業(活動)名	実施期間	場所	対象	人数	備考
1	掛合町交流センター主事会	通年(月1回)	波多交流センター	掛合町内交流センター主事	7	
2	かけや子どもカレンダー作成・配布	2～4月	掛合小学校	掛合町内各機関	900	
3	小体連陸上大会	5月13日	大東ふれあい運動場	雲南市内小学5・6年生	500	
4	島根県同和教育推進協議会	5月17日	ラメール	同和教育推進協議会委員	200	
5	掛合小学校 遠足	5月31日	竜頭ヶ滝	掛合小学校3年生	22	
6	通学合宿(入間・多根)	6月	掛合小学校	入間地区・多根地区小学生	20	
7	掛合町スポーツ活動における学社連携会議	6月22日	掛合小学校	掛合町スポーツ少年団指導者	12	
8	健康体力づくりについての打合せ	2ヶ月に1回程度	青少年ホーム他	身体教育医学研究所うなん 雲南市教育委員会 笹川スポーツ財団	15	
9	雲南市・飯南町中学校陸上大会	6月15日	大東ふれあい運動場	雲南市・飯南町中学生	200	
10	キョロバス事業	7～8月	雲南市内	雲南市内小中学生	350	雲南市民バスフリー 利用乗車券事業
11	掛合町4校連携PTA・保護者会	通年	掛合小学校	掛合町内PTA役員	20	
12	レッツチャレンジ スポーツ	7月～10月	掛合小学校体育館	掛合小学校児童	160	放課後を利用したスポーツ教室
13	地域教育協議会	年4回程度	掛合小学校	学校支援地域本部関係者	25	
14	波多自然合宿	8月2～4日	波多交流センター付近	雲南市内小学校児童	40	
15	幼稚園長会研修会	8月5日	アスパル	雲南市内幼稚園長他	100	
16	雲南市成人式	8月14日	アスパル	雲南市内の成人	300	
17	わんぱく相撲大会	9月	掛合小学校	掛合小学校5・6年生	61	
18	掛合中学校ふるさと学習	9月9日	竜頭ヶ滝他	掛合中学校1年生	30	
19	永井隆平和式典	9月11日	アスパル	雲南市民	300	
20	不登校児童・生徒対象体験プログラム	月1回程度	雲南市内	市内不登校児童・生徒	10	
21	掛合小運動会	9月25日	掛合分校グラウンド	掛合小学校児童	160	
22	出雲地区社会教育関係者研修会	9月28日	赤名農村環境改善センター	社会教育関係者	150	

【注】上半期には、通年で行った事業が含まれる。

<掛合小学校（下半期 10月～3月）>

	事業(活動)名	実施期間	場所	対象	人数	備考
23	森の工作inかけや	10月9日	掛合中学校	地域住民	300	自然物を利用したクラフト体験
24	幸雲南塾in三瓶	10月15～16日	三瓶青少年交流の家	雲南市内中学3年生	140	中学3年生キャリアアップ 宿泊研修
25	掛合町4校連携PTA・保護者会講演会	10月27日	掛合小学校	掛合町内保・小・中・高保護者	60	
26	ヤマタノオロチ伝説ツアー	11月13日	雲南市内	三刀屋・吉田・掛合地区 小学生	30	ふるさと教育プログラム
27	コミュニケーション術実践講座	11月16日	東部社会教育センター	講習会参加者	20	
28	親学講座	11月18日	西小学校	西小学校保護者	20	家庭教育プログラム
29	ひきこもりや不登校についての研修会	11月30日	チェリヴァホール	講習会参加者	50	
30	吉田・掛合スポ少 レッツチャレンジ スポーツ	11～1月	掛合体育館他	吉田・掛合小児童	30	吉田・掛合スポ少体験会
31	三刀屋中学校文化祭(森の工作)	11月3日	三刀屋中学校	三刀屋町住民	50	自然物を利用したクラフト体験
32	鳥根県体育研究大会	11月8日	寺領小学校	県内外教職員	250	
33	スポーツコーディネーター先進地視察	11月10～11日	富山県内	雲南市社会教育課職員	5	
34	雲南市教育フェスタ	11月26～27日	ラメール	教育関係者	300	
35	親子元気アップ事業	1月22日	掛合小学校	吉田・掛合小児童・保護者	30	日本レクリエーション協会 主催事業
36	スキー教室	1月27日	琴引フォレストパーク	掛合小学校5・6年生	61	
37	スポーツ雪合戦大会	1月29日	波多交流センター	吉田・掛合小児童	14	ふるさと教育プログラム
38	スノーキャンプ	2月12～13日	吉田グリーンシャワーの森	三刀屋小学校6年生	34	
39	吉田・掛合スポ少連絡協議会合同合宿	2月25～26日	三瓶青少年交流の家	吉田・掛合小スポ少団員	33	
40	縄跳び超人みっちゃんパフォーマンス&出前授業	3月6日	掛合小学校	掛合小学校児童	170	

<寺領小学校（上半期① 4月～9月）>

	事業(活動)名	実施期間	場所	対象	人数	備考
1	日登っ子のびのび教室(放課後子ども教室)	週2日程度	日登交流センター	寺領小学校児童	67	
2	島根大学1000時間プログラム募集	4月20日	島根大学	島根大学生	300	島根大学教育学部 基礎体験活動
3	小体連陸上大会	5月13日	大東ふれあい運動場	雲南市内小学5・6年生	500	
4	島根県同和教育推進協議会	5月17日	ラメール	同和教育推進協議会委員	200	
5	西日登ロードレース大会	5月20日	西日登小学校	西日登小学校児童	50	
6	西日登自然観察(もりふれクラブ)	5月24日	西日登小学校	西日登小学校5年生	8	西日登小学校 自然観察の授業
7	社会教育委員会	5月26日	雲南市役所議場	社会教育推進委員 教育委員会職員	30	
8	サンライズフォークダンスのつどい	5月26日	日登交流センター	地域住民	50	
9	健康体かづくりについての打合せ	2ヶ月に1回程度	青少年ホーム他	身体教育医学研究所うなん 雲南市教育委員会 笹川スポーツ財団	15	
10	木次地区 地域自主組織連絡会	月1回程度	木次総合センター他	木次地区地域自主組織役員 雲南市職員	20	
11	寺領っ子運動会	6月4日	寺領小学校 校庭	寺領小学校児童	100	
12	プール掃除	6月13日	寺領小学校 プール	寺領小学校児童	67	
13	下熊谷交流センター世代間交流	6月6日 10月17日	下熊谷交流センター付近	木次小学校児童	60	
14	雲南市・飯南町中学校陸上大会	6月15日	大東ふれあい運動場	雲南市・飯南町中学生	200	
15	キョロパス事業	7～8月	雲南市内	雲南市内小中学生	350	雲南市民バスフリー 利用乗車券事業
16	体育集会(地元プロバスケットチーム来校)	6月22日	寺領小学校	寺領小学校児童	67	スサノオマジック
17	木次の子どもを育てる会	月1回	木次中学校他	木次中学校区内の教職員	200	校区内教職員による生徒指導 についての意見交換会
18	5歳児交流会	6月・10月	雲南市内	木次中学校区内の5歳児	100	
19	西日登通学合宿	7月5～7日	西日登小学校	西日登小学校5年生	8	
20	親子パートナーストレッチ教室	7月12日	寺領小学校	寺領小学校児童・保護者	100	
21	地域教育協議会	7月14日	斐伊小学校	学校支援地域本部関係者	50	
22	サンライズ宿泊研修	7月21～22日	寺領小学校	寺領小学校児童	67	地域ボランティア15名参加
23	三新塔交流センター キャンプ	8月4日	木次公園	木次小学校三新塔地区小中 学生	30	

【注】上半期には、通年で行った事業が含まれる。

<寺領小学校（上半期② 4月～9月）>

	事業(活動)名	実施期間	場所	対象	人数	備考
24	幼稚園長会研修会	8月5日	アスパル	雲南市内幼稚園長他	100	
25	永井隆博士の平和のメッセージを学ぼう	8月10日	永井隆記念館	雲南市民	15	
26	生涯学習事業「魔法の袋でごはんをつくらう」	8月12日	加茂交流センター	加茂小学校児童	100	
27	雲南市成人式	8月14日	アスパル	雲南市内成人	300	
28	サマーボランティアスクール	8月19日	三刀屋健康福祉センター	木次・三刀屋中学校区中学生	30	
29	1～2年生川遊び体験	8月31日	日登地域の川	寺領小学校1・2年生	10	
30	小学校5年生交流事業	9月8日	木次小学校	木次中学校区内小学5年生	100	
31	小学校6年生交流事業	10月4日	木次小学校	木次中学校区内小学6年生	100	
32	永井隆平和式典	9月11日	アスパル	雲南市民	300	
33	寿学級＋小学生による交流事業	9月12日	西谷古墳周辺	地域高齢者 寺領小学校児童	50	
34	幼稚園児との世代間交流事業	9月14日 10月26日 1月12日	日登地区	地域住民 寺領幼稚園児	20	川遊び・地域散策・伝承遊び
35	日登地区キャンプ	9月24日	木次町・食の杜	スポーツ少年団員	20	スポーツ少年団活動
36	大東陸上大会	9月25日	大東ふれあい運動場	大会参加者	300	
37	日登地区世代間交流事業(勤労生産活動:草刈り作業)	9月26日	日登交流センター	地域住民 寺領小学校児童	100	
38	健康・体づくり研修	9月27日	寺領小学校	寺領小学校4～6年生 保護者	70	
39	出雲地区社会教育関係者研修会	9月28日	赤名農村環境改善センター	社会教育関係者	150	
40	不登校児童・生徒対象体験プログラム	月1回程度	雲南市内	市内不登校児童・生徒	10	
41	西日登放課後子ども教室	9月26日 10月31日 1月16日	西日登交流センター	西日登小学校児童	30	

<寺領小学校（下半期 10月～3月）>

	事業(活動)名	実施期間	場所	対象	人数	備考
42	寺領小学校 遠足	10月3日	大田市三瓶山周辺	寺領小学校1～4年生	40	
43	森の工作inかけや	10月9日	掛合中学校	地域住民	300	自然物を利用したクラフト体験
44	幸雲南塾in三瓶	10月15～16日	三瓶青少年交流の家	雲南市内中学3年生	140	中学3年生キャリアアップ 宿泊研修
45	ロードレース大会	10月21日	斐伊小学校周辺	斐伊小学校児童	100	
46	「しまねっこ」隊 来園	10月26日	寺領幼稚園	寺領幼稚園児	13	島根観光キャラクター 「しまねっこ」によるダンス教室
47	ヤマタノオロチ伝説ツアー	10月30日	雲南市内	加茂・木次中学校区小学生	30	ふるさと教育プログラム
48	三刀屋中学校文化祭(森の工作)	11月3日	三刀屋中学校	三刀屋町住民	50	自然物を利用したクラフト体験
49	島根県体育研究大会	11月8日	寺領小学校	県内外教職員	250	
50	スポーツコーディネーター先進地視察	11月10～11日	富山県内	雲南市社会教育課職員	5	富山県
51	コミュニケーション術実践講座	11月16日	東部社会教育センター	講習会参加者	20	
52	雲南市教育フェスタ	11月26～27日	ラメール	教育関係者	300	
53	寺領っ子発表会	12月3日	寺領小学校	寺領小学校児童	67	寺領小学習発表会
54	なわとび超人「みっちゃん」のなわとびパフォーマンス	12月8日	寺領小学校体育館	寺領幼稚園・小学校	80	縄跳び超人による パフォーマンスと指導
55	健康体カづくり通信の発行	9月・12月	日登地域	日登地域全戸	1600	
56	親子元気アップ事業	1月22日	掛合小学校	吉田・掛合小児童・保護者	30	日本レクリエーション協会 主催事業
57	もちつき交流会	1月21日	日登交流センター	寺領幼稚園・小学校 保護者	100	
58	木次地区交流センター訪問	1月25・27日	木次地区交流センター	各地域自主組織生涯学習担当者他	20	生涯学習の取り組み等、 情報交換
59	スポーツ雪合戦大会	1月29日	波多交流センター	吉田・掛合小児童	14	ふるさと教育プログラム
60	健康体カづくり「味覚の授業」	2月3日	寺領幼稚園	寺領幼稚園保護者	20	
61	スノーキャンプ	2月12～13日	吉田グリーンシャワー森	三刀屋小学校6年生	34	
62	健康体カづくり「長靴スケート」	2月22日	湖遊館スケートリンク	寺領幼稚園児	14	
63	笹川スポーツ財団政策提言意見交換会	2月22日	下熊谷交流センター	雲南市内体育関係者	30	
64	健康体カづくり「音楽集会」リズム体操	2月29日	寺領小学校	寺領小学校児童 地域住民	80	

<西小学校（上半期① 4月～9月）>

	事業(活動)名	実施期間	場所	対象	人数	備考
1	西小学校放課後子ども教室	週1回程度	西小学校	西小学校児童	60	
2	西小学校陸上記録会	4月15日	西小学校校庭	西小学校5・6年生	55	
3	大東町東部校長会	月1回程度	大東中学校	校長 教育支援コーディネーター 社会教育コーディネーター	12	
4	大東町教育支援コーディネーター会	年間5回程度	小学校会議室	教育支援コーディネーター 社会教育コーディネーター 地域づくり担当者	11	
5	島根大学1000時間プログラム募集	4月20日	島根大学	島根大学生	300	島根大学教育学部 基礎体験活動
6	西小学校PTA総会	4月27日	西小学校	西小学校保護者 職員	130	
7	小体連陸上大会	5月12～13日	大東ふれあい運動場	雲南市内小学5・6年生	500	12日準備
8	いわくま整備作業	5月15日	西小いわくまコース	PTA環境整備部・職員	20	西小学校に隣接する アスレチックコース
9	島根県同和教育推進協議会	5月17日	ラメール	同和教育推進協議会委員	200	
10	なかよし教室(児童生徒支援施設)事業	5月25日	加茂なかよしホール	雲南市内児童	10	
11	3年生親子活動	5月29日	西小学校体育館	西小学校3年生・保護者	60	人間関係づくりワーク実施
12	健康体力づくりについての打合せ	2ヶ月に1回程度	青少年ホーム他	身体教育医学研究所うなん 雲南市教育委員会 笹川スポーツ財団	15	
13	西小っ子運動会	6月4日	西小学校校庭	西小学校児童・保護者・職員	250	特別支援学級運動会
14	なかよし運動会	6月10日	西小学校体育館	雲南市内小中学生・保護者	100	
15	交通安全教室	6月10日	西小学校校庭	西小学校児童	170	
16	雲南市・飯南町中学陸上大会	6月15日	大東ふれあい運動場	雲南市・飯南町中学生	200	
17	大東町こども祭り(森の工作ブース設置)	6月19日	体育文化センター	大東町内幼児・園児	100	自然物を利用したクラフト体験
18	大東子どもを語る会	年間3回程度	阿用小学校	保幼小中管理職教職員	20	
19	キョロバス事業	7～8月	雲南市内	雲南市内小中学生	350	雲南市民バスフリー 利用乗車券事業
20	おおざっこサークル	年間3回程度	福祉センター	大東町内乳幼児	40	在宅乳幼児プログラム
21	救急法研修会	7月1日	西小学校体育館	西小学校児童・保護者・職員	80	
22	防犯教室	7月4日	西小学校	西小学校児童・職員	190	
23	スポーツ少年団連絡会	7月7日	春殖交流センター	スポーツ少年団指導者・教員	8	

【注】上半期には、通年で行った事業が含まれる。

<西小学校（上半期②）4月～9月）>

	事業(活動)名	実施期間	場所	対象	人数	備考
24	鍋山放課後こども教室	7月9日	鍋山交流センター	鍋山地域園児・児童	30	
25	平和学習	7月14日	西小学校会議室	西小学校6年生	30	
26	親子体操教室	7月18日 12月18日	西小学校体育館	西幼稚園・西小学校親子	7	
27	キャンプでクッキング大作戦	7月22日	上久野桃源郷	西小学校児童・保護者	20	
28	雲南市成人式	8月14日	アスバル	雲南市内成人	300	
29	丸子山で遊ぼう	8月24日	大東公園体育館	雲南市内児童	15	ふるさと教育プログラム
30	西小学校PTA奉仕作業	8月28日	西小学校校庭	西小学校児童・保護者	170	
31	永井隆平和式典	9月11日	アスバル	雲南市民	300	
32	ヤマタノオロチ伝説ツアー	9月18日	雲南市内	大東町地区小学生	30	ふるさと教育プログラム
33	大東陸上大会	9月24～25日	大東ふれあい運動場	大会参加者	300	24日準備
34	出雲地区社会教育関係者研修会	9月28日	赤名農村環境改善センター	社会教育関係者	150	
35	不登校児童・生徒対象体験プログラム	月1回程度	雲南市内	市内不登校児童・生徒	10	



コーディネーターがつくった運動を促す仕掛け

<西小学校（下半期 10月～3月）>

	事業(活動)名	実施期間	場所	対象	人数	備考
36	森の工作inかけや	10月9日	掛合中学校	地域住民	300	自然物を利用したクラフト体験
37	西小学校4年生 森林学習	10月13日	学校林	西小学校4年生児童	30	
38	幸雲南塾in三瓶	10月15～16日	三瓶青少年交流の家	雲南市内中学3年生	140	中学3年生キャリアアップ 宿泊研修
39	西小学校ロードレース大会	10月28日 11月1日	西小学校	西小学校児童	170	
40	幼稚園丸倉山登山	11月2日	丸倉山	西幼稚園児	20	
41	三刀屋中学校文化祭(森の工作)	11月3日	三刀屋中学校	三刀屋町住民	50	自然物を利用したクラフト体験
42	春殖ふれあい祭り	11月6日	春殖交流センター	春殖地区住民	160	
43	鳥根県体育研究大会	11月8日	寺領小学校	県内外教職員	250	
44	スポーツコーディネーター先進地視察	11月10～11日	富山県	雲南市社会教育課職員	5	
45	幡屋地区文化祭	11月12～13日	幡屋交流センター	幡屋地区住民	200	
46	コミュニケーション術実践講座	11月16日	東部社会教育センター	講習会参加者	20	
47	いきいき発表会	11月19日	西小学校体育館	西小学校児童・保護者	300	西小学校学習発表会
48	雲南市教育フェスタ	11月26～27日	ラメール	教育関係者	300	
49	スサノオマジック夢の交流会	11月29日	西小学校体育館	西小学校児童	170	地元プロバスケットボールチーム
50	地元出身プロ野球選手との交流会	12月5日	西小学校食堂棟	西小学校児童	170	
51	校内ドッジボール大会	12月14日	西小学校体育館	西小学校児童	170	
52	クリスマスおもしろ楽綴	12月17日	西小学校体育館	西小学校児童・保護者・職員	60	室内雪合戦
53	交流センター訪問	12月17日・22日	大東町内交流センター	大東町内各交流センター職員	30	
54	幡屋地区かるた大会	1月4日	幡屋交流センター	西小学校児童	14	
55	春殖地区かるた大会	1月5日	春殖交流センター	西小学校児童	60	
56	大東中学校区小6交流会	1月17日	大東中学校	大東中学校区小学6年生	98	
57	大東ふれあい餅つき大会	1月22日	大東ドーム	大東地区園児・児童・保護者	60	
58	スポーツ雪合戦大会	1月29日	波多交流センター	吉田・掛合小児童	14	ふるさと教育プログラム
59	スノーキャンプ	2月12～13日	吉田グリーンシャワーの森	三刀屋小学校6年生児童	34	
60	なわとび超人によるなわとびパフォーマンス	2月22日	西小学校体育館	西小学校児童	170	

月間記録について

4ヶ月間の月間記録からは、コーディネーター3名が日常的にどのような活動に従事したのかがうかがえる。コーディネーターが行った主な業務内容を以下の6分野に分け、それぞれの回数を記した。

1. 「学外」少人数打合せ（3名合計）：98回（月平均24回、一人あたり月8回）
2. 「学内」少人数打合せ（3名合計）：82回（月平均20回、一人あたり月6回）
3. 「学外」行事・会議等出席（3名合計）：97回（月平均24回、一人あたり月8回）
4. 「学内」行事・会議等出席（3名合計）：69回（月平均17回、一人あたり月5回）
5. 資料作成（3名合計）：106回（月平均26回、一人あたり月8回）
6. 学内の児童たちの健康・体力づくりに向けた環境整備（3名合計）：18回（月平均4回、一人あたり月1回）

月間記録上は、上記の業務以外に、週1回の頻度で実施されたコーディネーターと教育委員会担当者による「定例会」、コーディネーターによる電話の回数も記録されている。定例会は、コーディネーターと担当者間の業務報告のみならず、児童の健康・体力づくりに資する活動についての情報共有や、地域の団体・個人とのコミュニケーションのとり方に関するアイデア交換などに充てられ、担当者と各コーディネーターが互いの活動をバックアップする貴重な機会となった。

学内・外での少人数による打合せおよび行事・会議等への参加回数の一人あたり平均の合計は月27回となり、ほぼ毎日1～2回の打合せや行事・会議に参加したことがわかる。また、主に学内での資料作成に一人平均で月8回携わっており、学校と家庭、地域をつなぐ役のコーディネーターも学内での事務作業に一定の時間を割いたことがうかがえた。



地元トップアスリートとの交流プログラム

図表 9. 地域スポーツコーディネーターの活動記録（4ヶ月）

<掛合小学校>

【10月】 勤務実績(平日 20日/土日 3日)					
■打合せ 学外:3回/学内:9回	■行事・会議等への出席 学外:0回/学内:17回	■資料の作成 学内:10回	■環境整備 学内:0回	■コーディネーター定例会 学外:5回	■その他 電話:11回
事業(活動)名 当月の活動内容	実施期間	場所	関係団体・関係者		
にこにこ広場 掛合小学校レッツチャレンジ スポーツ 事前打合せ	10月2日	掛合小学校	三刀屋町スポーツ少年団バスケット指導者 保護者 掛合町スポーツ少年団		
森の工作inかけや クラフト用材料の収集(9/28)、 クラフト体験の準備作業(10/6)	10月9日	掛合中学校	雲南市内社会教育コーディネーター		
おやこ元気アップ事業 事前打合せ	10月12日	グリーンシャワーの森	レクリエーション協会担当者		
幸雲南塾 社会教育コーディネーター定例会時での打合せ、 事前準備(10/14)	10月15~16日	三瓶青少年交流の家	雲南市内社会教育コーディネーター 三瓶青少年交流の家職員		
掛合町4校連携PTA・保護者会講演会 事前打合せ、事前準備	10月27日	掛合小学校	掛合町4校PTA役員 身体教育医学研究所うなんん担当者		

【11月】 勤務実績(平日 19日/土日 4日)					
■打合せ 学外:9回/学内:18回	■行事・会議等への出席 学外:10回/学内:3回	■資料の作成 学内:10回	■環境整備 学内:0回	■コーディネーター定例会 学外:5回	■その他 電話:13回
事業(活動)名 当月の活動内容	実施期間	場所	関係団体・関係者		
おやこ元気アップ事業 事前打合せ(11/1)	1月22日	掛合小学校	レクリエーション協会担当者 社会教育コーディネーター		
三刀屋中学校文化祭 森の工作クラフト 事前打合せ	11月3日	三刀屋中学校	社会教育コーディネーター 教育支援コーディネーター		
第15回島根県体育研究大会 事前打合せ(11/7)	11月8日	寺領小学校	寺領小学校教職員 寺領小学校PTA		
スポーツコーディネーター先進地視察	11月10~11日	NPO法人おやべスポーツクラブ NPO法人新湊カモンスポーツクラブ (富山県)	NPO法人おやべスポーツクラブ担当者 NPO法人新湊カモンスポーツクラブ担当者 財団法人富山県体育協会担当者		
コミュニケーション術実践講座	11月16日	島根県東部社会教育センター			
不登校児童・生徒対象体験プログラム 事前打合せ(11/9)	11月14日	しまね自然の学校	しまね自然の学校担当者 児童生徒支援施設職員		
ヤマタノオロチ伝説ツアー 事前打合せ	11月13日	雲南市内	社会教育コーディネーター		
雲南市教育フェスタ 事前打合せ、パネル展示、事前準備	11月26~27日	ラメール	雲南市教育委員会		
親学 事前打合せ	11月28日	西小学校	雲南市教育委員会 西小学校新入学保護者		
ひきこもりや不登校についての研修会	11月30日	チェリヴァホール			
掛合スポーツ少年団 レッツチャレンジ スポーツ 事前打合せ	11月13日	掛合小学校	掛合町スポーツ少年団 保護者		

【12月】 勤務実績(平日 16日/土日 0日)

■打合せ 学外:5回/学内:7回	■行事・会議等への出席 学外:7回/学内:3回	■資料の作成 学内:10回	■環境整備 学内:0回	■コーディネーター定例会 学外:3回	■その他 電話:7回
---------------------	----------------------------	------------------	----------------	-----------------------	---------------

事業(活動)名 当月の活動内容	実施期間	場所	関係団体・関係者
掛合スポーツ少年団 レッツチャレンジ スポーツ 事前打合せ	12月5・15日	掛合体育館 掛合小学校	掛合町スポーツ少年団 保護者
掛合町4校連携PTA・保護者会	12月2日	掛合小学校	掛合町4校PTA役員
不登校児童・生徒対象体験プログラム 事前打合せ(12/7)	12月16日	しまね自然の学校	しまね自然の学校担当者 児童生徒支援施設職員
掛合地区交流センター訪問	12月13日	掛合地区各交流センター	掛合地区各交流センター職員

【1月】 勤務実績(平日 18日/土日 2日)

■打合せ 学外:12回/学内:8回	■行事・会議等への出席 学外:7回/学内:6回	■資料の作成 学内:13回	■環境整備 学内:0回	■コーディネーター定例会 学外:3回	■その他 電話:11回
----------------------	----------------------------	------------------	----------------	-----------------------	----------------

事業(活動)名 当月の活動内容	実施期間	場所	関係団体・関係者
掛合スポーツ少年団 レッツチャレンジ スポーツ 事前打合せ	1月8日	掛合武道館	掛合町スポーツ少年団 保護者
掛合スポーツ少年団合同合宿 事前打合せ	2月25～26日	三瓶青少年交流の家	掛合町スポーツ少年団 保護者
不登校児童・生徒対象体験プログラム 事前打合せ	1月23日	しまね自然の学校	しまね自然の学校担当者 児童生徒支援施設職員
おやこ元気アップ事業 事前打合せ(1/22)	1月22日	掛合小学校	社会教育コーディネーター レクリエーション協会
スポーツ雪合戦 事前打合せ、事前準備(1/24)	1月29日	波多交流センター	波多交流センター職員 波多コミュニティー協議会 雲南市教育委員会

<寺領小学校>

【10月】 勤務実績(平日 21日/土日 4日)

■打合せ 学外・・・11回/学内・・・2回	■行事・会議等への出席 学外・・・15回/学内・・・3回	■資料の作成 学内・・・4回	■環境整備 学内・・・3回	■コーディネーター定例会 学外・・・5回	■その他 電話・・・9回
--------------------------	---------------------------------	-------------------	------------------	-------------------------	-----------------

事業(活動)名 当月の活動内容	実施期間	場所	関係団体・関係者
寺領小学校 遠足 事前打合せ	10月3日	三瓶青少年交流の家	寺領小学校教員
森の工作inかけや クラフト用材料の収集(9/28～)、 クラフト体験の準備作業(10/6)	10月9日	掛合中学校	雲南市内社会教育コーディネーター
幸雲南塾 社会教育コーディネーター定例会時での打合せ、 事前準備(10/14)	10月15～16日	三瓶青少年交流の家	島根大学学生
不登校児童・生徒対象体験プログラム 事前打合せ、会場下見	10月19日	八十山	しまね自然の学校担当者 児童生徒支援施設職員
ロードレース大会 道路使用申請、事前打合せ	10月21日	斐伊小学校周辺	斐伊小学校教職員
世代間交流事業(秋みつけ散策) 事前打合せ	10月26日	日登地域	東谷・天殿地域住民 日登交流センター担当者
「しまねっこ」隊 来園 日程調整、事前打合せ	10月26日	寺領幼稚園遊具室	寺領幼稚園教諭 社団法人島根県観光連盟担当者
ヤマタノオロチ伝説ツアー 事前打合せ	10月30日	雲南市内	社会教育コーディネーター

【11月】 勤務実績(平日 18日/土日 4日)

■打合せ 学外・・・4回/学内・・・0回	■行事・会議等への出席 学外・・・3回/学内・・・7回	■資料の作成 学内・・・13回	■環境整備 学内・・・7回	■コーディネーター定例会 学外・・・5回	■その他 電話・・・6回
-------------------------	--------------------------------	--------------------	------------------	-------------------------	-----------------

事業(活動)名 当月の活動内容	実施期間	場所	関係団体・関係者
三刀屋中学校文化祭 森の工作クラブ 事前打合せ	11月3日	三刀屋中学校	社会教育コーディネーター 教育支援コーディネーター
第15回島根県体育研究大会 事前打合せ、看板作成、道路使用申請、 各種物品の借用	11月8日	寺領小学校	寺領小学校教職員 寺領小学校PTA 雲南市役所総務課 島根県雲南県土整備事務所 雲南市建設部
スポーツコーディネーター先進地視察	11月10～11日	NPO法人おやべスポーツクラブ NPO法人新湊カモンスポーツクラブ (富山県)	NPO法人おやべスポーツクラブ担当者 NPO法人新湊カモンスポーツクラブ担当者 財団法人富山県体育協会担当者
コミュニケーション術実践講座	11月16日	島根県東部社会教育センター	
子どもを育てる会 5歳児交流会 事前打合せ	11月17日	斐伊幼稚園裏山	木次中学校区保育園・幼稚園職員
なわとび超人「みっちゃん」のなわとびパフォーマンス 事前打合せ、講師依頼文書作成、起案提出	12月7日	寺領小学校体育館	なわとび超人「みっちゃん」 雲南市教育委員会社会教育課 雲南市立寺領小学校 雲南市立寺領幼稚園
雲南市教育フェスタ 事前打合せ、パネル展示、事前準備	11月26～27日	ラメール	雲南市教育委員会

【12月】 勤務実績(平日 16日/土日 1日)

■打合せ 学外・・・7回/学内・・・6回	■行事・会議等への出席 学外・・・10回/学内・・・10回	■資料の作成 学内・・・13回	■環境整備 学内・・・3回	■コーディネーター定例会 学外・・・3回	■その他 電話・・・20回
事業(活動)名 当月の活動内容		実施期間	場所	関係団体・関係者	
寺領っ子発表会		12月3日	寺領小学校	寺領小学校教職員	
なわとび超人「みっちゃん」のなわとびパフォーマンス 資料作成、職員会での起案説明、バナーの作成		12月6日	寺領小学校体育館	寺領小学校教職員 寺領幼稚園教諭	
健康・体かづくり通信の発行 資料作成		12月20日	日登地域全戸		
幼稚園児との世代間交流事業 事前打合せ		1月12日	寺領幼稚園	日登交流センター担当者 寺領幼稚園教職員	

【1月】 勤務実績(平日 18日/土日 2日)

■打合せ 学外・・・19回/学内・・・2回	■行事・会議等への出席 学外・・・18回/学内・・・2回	■資料の作成 学内・・・10回	■環境整備 学内・・・2回	■コーディネーター定例会 学外・・・3回	■その他 電話・・・11回
事業(活動)名 当月の活動内容		実施期間	場所	関係団体・関係者	
木次地区交流センター訪問		1月25・27日	木次地区各交流センター	木次地区各交流センター職員	
木次地区地域自主組織の会		1月11日	木次総合センター		
幼稚園児との世代間交流事業 事前打合せ		1月12日	寺領幼稚園	小川・東谷・天殿地域住民 寺領幼稚園教諭 日登交流センター担当者	
おやこ元気アップ事業 事前打合せ		1月22日	掛合小学校	社会教育コーディネーター レクリエーション協会	
西日登交流センター放課後子ども教室 事前打合せ		1月16日	西日登交流センター	西日登交流センター職員 雲南市教育委員会	
木次地区交流センター訪問 社会教育推進についての情報交換		1月25・27日	木次地区各交流センター	各交流センター職員 雲南市教育委員会 木次地域づくり担当職員 雲南市教育委員会 政策企画部職員	
スポーツ雪合戦大会 大会運営		1月29日	波多交流センター	羽多地域住民 吉田町・掛合町の小学校児童 社会教育課職員	

<西小学校>

【10月】 勤務実績(平日 21日/土日 3日)

■打合せ 学外・・・5回/学内・・・12回	■行事・会議等への出席 学外・・・10回/学内・・・7回	■資料の作成 学内・・・6回	■環境整備 学内・・・1回	■コーディネーター定例会 学外・・・5回	■その他 電話・・・11回
--------------------------	---------------------------------	-------------------	------------------	-------------------------	------------------

事業(活動)名 当月の活動内容	実施期間	場所	関係団体・関係者
森の工作inかけや クラフト用材料の収集(9/28～)、 クラフト体験の準備作業(10/6)	10月9日	掛合中学校	雲南市内社会教育コーディネーター
森林学習4年生 事前打合せ	10月13日	西小学校 学校林	出雲森林組合
幸雲南塾 社会教育コーディネーター定例会時での打合せ、 事前準備(10/14)	10月15～16日	三瓶青少年交流の家	島根大学学生
校内ロードレース大会 事前打合せ	10月28日	西小学校	西小学校教職員 西大東駐在所

【11月】 勤務実績(平日 22日/土日 6日)

■打合せ 学外・・・9回/学内・・・7回	■行事・会議等への出席 学外・・・6回/学内・・・4回	■資料の作成 学内・・・9回	■環境整備 学内・・・0回	■コーディネーター定例会 学外・・・5回	■その他 電話・・・2回
-------------------------	--------------------------------	-------------------	------------------	-------------------------	-----------------

事業(活動)名 当月の活動内容	実施期間	場所	関係団体・関係者
三刀屋中学校文化祭 森の工作クラフト 事前打合せ	11月3日	三刀屋中学校	社会教育コーディネーター 教育支援コーディネーター
春殖ふれあい祭り 事前打合せ	11月6日	春殖交流センター	春殖交流センター職員
第15回島根県体育研究大会 事前準備	11月8日	寺領小学校	寺領小学校教職員 寺領小学校PTA
スポーツコーディネーター先進地視察	11月10～11日	NPO法人おやべスポーツクラブ NPO法人新湊カモンスポーツクラブ (富山県)	NPO法人おやべスポーツクラブ担当者 NPO法人新湊カモンスポーツクラブ担当者 財団法人富山県体育協会担当者
幡屋地区文化祭 事前打合せ	11月12～13日	幡屋交流センター	幡屋交流センター職員
コミュニケーション術実践講座	11月16日	島根県東部社会教育センター	
いきいき発表会 事前打合せ	11月19日	西小学校	西小学校教職員
雲南市教育フェスタ 事前打合せ、パネル展示、事前準備	11月26～27日	ラメール	雲南市教育委員会

【12月】 勤務実績(平日 22日/土日 2日)

■打合せ 学外・・・10回/学内・・・9回	■行事・会議等への出席 学外・・・3回/学内・・・3回	■資料の作成 学内・・・2回	■環境整備 学内・・・0回	■コーディネーター定例会 学外・・・3回	■その他 電話・・・8回
--------------------------	--------------------------------	-------------------	------------------	-------------------------	-----------------

事業(活動)名 当月の活動内容	実施期間	場所	関係団体・関係者
大東地区交流センター訪問	12月19・21日	大東町内交流センター	大東地区各交流センター職員
地元出身プロ野球選手との交流会	12月5日	西小学校	当該選手の親類
校内ドッジボール大会	12月14日	西小学校	体育主任 体育委員会
室内雪合戦	12月17日	西小学校	春殖交流センター職員 生涯学習部
親子体操教室	12月18日	西小学校	スポーツインストラクター

【1月】 勤務実績(平日 22日/土日 2日)

■打合せ 学外・・・4回/学内・・・2回	■行事・会議等への出席 学外・・・8回/学内・・・4回	■資料の作成 学内・・・6回	■環境整備 学内・・・2回	■コーディネーター定例会 学外・・・3回	■その他 電話・・・0回
-------------------------	--------------------------------	-------------------	------------------	-------------------------	-----------------

事業(活動)名 当月の活動内容	実施期間	場所	関係団体・関係者
幡屋地区かるた大会	1月4日	幡屋交流センター	幡屋交流センター職員 生涯学習部
春殖地区かるた大会	1月5日	春殖交流センター	春殖交流センター職員 生涯学習部
大東校区小学6年生交流会	1月17日	大東中学校	大東校区6年生担任 大東中学校生徒会 教育支援コーディネーター 社会教育コーディネーター
大東ふれあい餅つき大会	1月22日	大東ドーム	大東交流センター職員 大東生涯学習部 社会教育コーディネーター 教育支援コーディネーター
スポーツ雪合戦大会	1月29日	波多交流センター	波多交流センター職員 社会教育課 社会教育コーディネーター



コーディネーターが引率したキャンプ事業

5. 結果

(関係者とコーディネーター本人を対象としたアンケート・ヒアリング結果)

(1) 同僚教員による評価 (アンケート結果)

1) 雲南市学校と地域をつなぐ専門人材の導入に関するアンケート集計結果

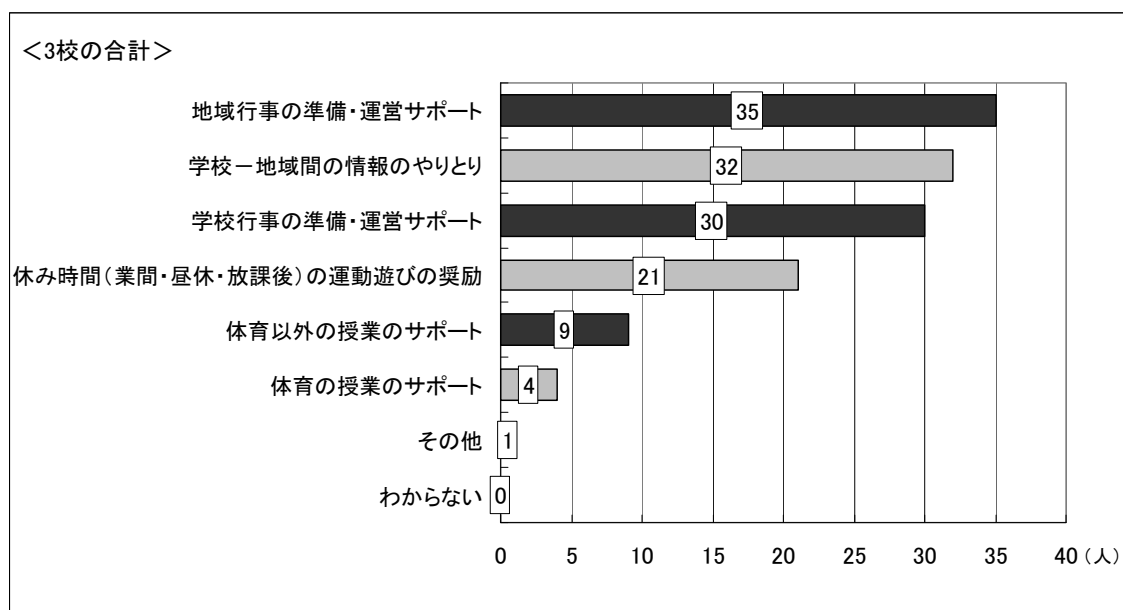
地域スポーツコーディネーターが配置されることによるメリットや今後に向けての課題を明らかにするため、地域スポーツコーディネーターが配置された学校の教員（校長を除く）を対象に、アンケート調査を行った。

主な質問に対する①選択回答、②自由記述回答の結果は以下のとおりである。

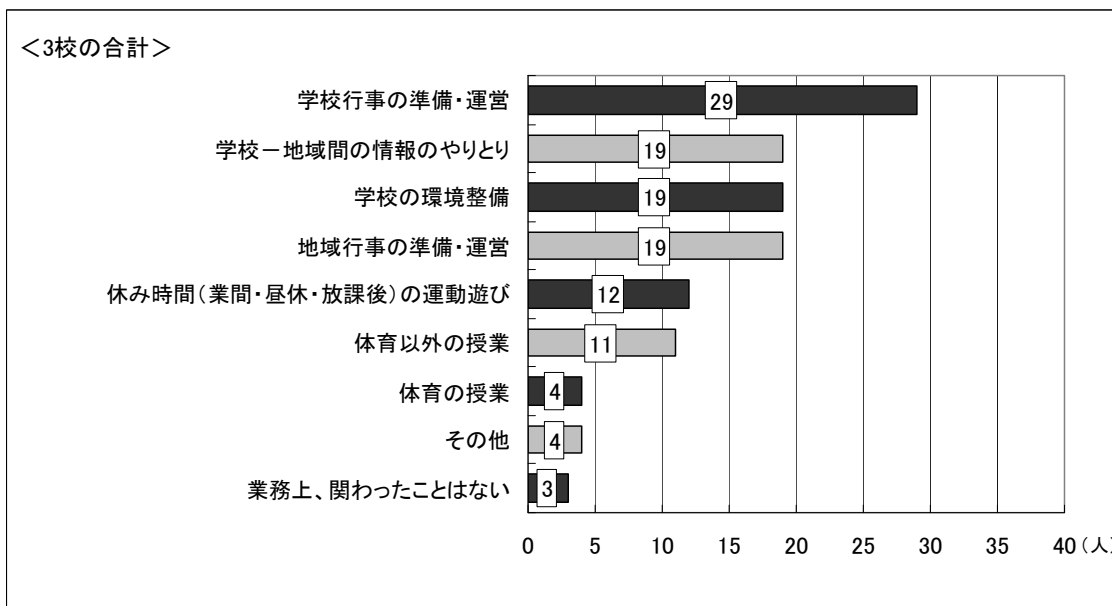
雲南市 学校と地域をつなぐ専門人材の導入に関するアンケート 集計結果_①選択回答

コーディネーターの活動に対する理解度を把握するため、具体的な活動が何かをたずねたところ、「地域行事の準備・運営サポート」「学校-地域間の情報のやりとり」「学校行事の運営サポート」の回答が多かった（問 A）。教員自身がコーディネーターと直接関わった業務でもっとも多かったのは「学校行事の準備・運営」で、「学校-地域間の情報のやりとり」「学校の環境整備」「地域行事の準備・運営」がこれに続いた（問 B）。教員が、自身の関わりだけでなく、コーディネーターの活動内容を第三者として把握していることがわかる。なお、関わった業務の中でもっとも有効だったのは問 B と同様に「学校行事の準備・運営」であった（問 C）。

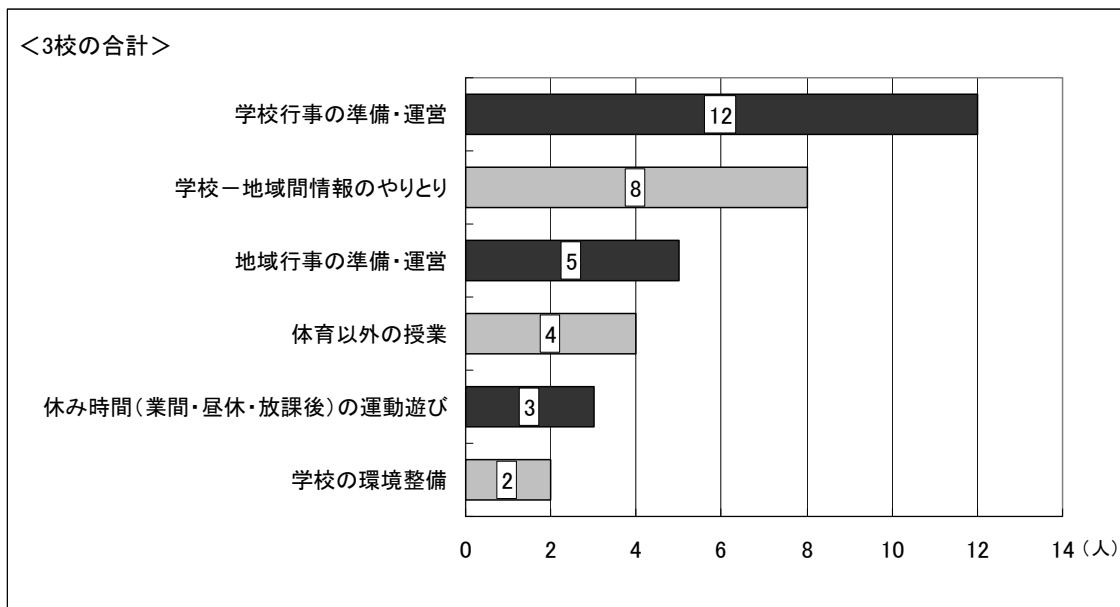
【問 A】地域スポーツコーディネーターの具体的な活動内容について、当てはまるものすべてに○をつけてください。（図表 10）



【問 B】 あなたは、コーディネーターとはどういった業務で関わられましたか
 (当てはまるものすべてに○)。(図表 11)

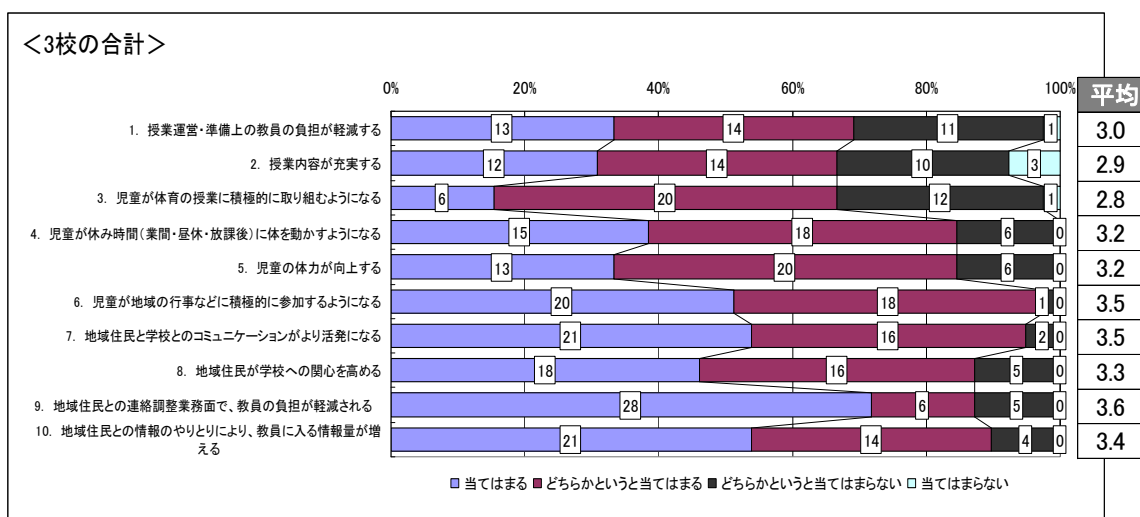


【問 C】 問 B に示した業務の中で、もっとも有効だった(ありがたかった)ものについて、
 当てはまる番号をひとつ選び、以下にご記入ください。(図表 12)



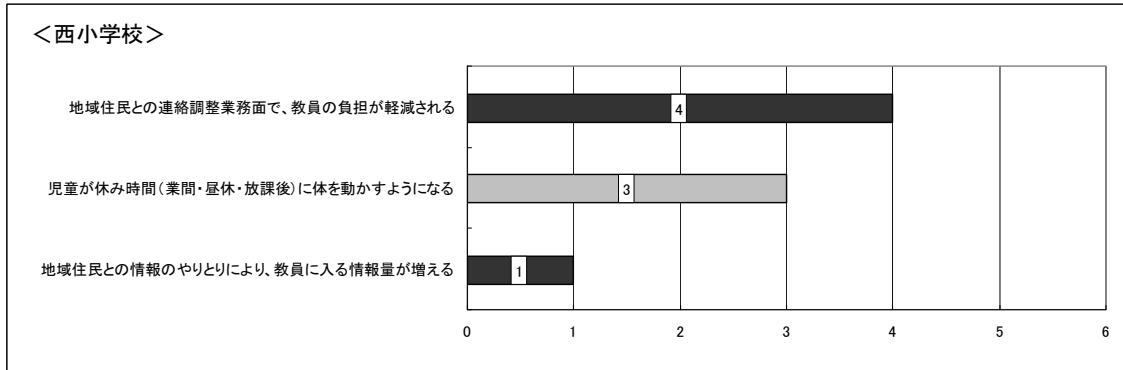
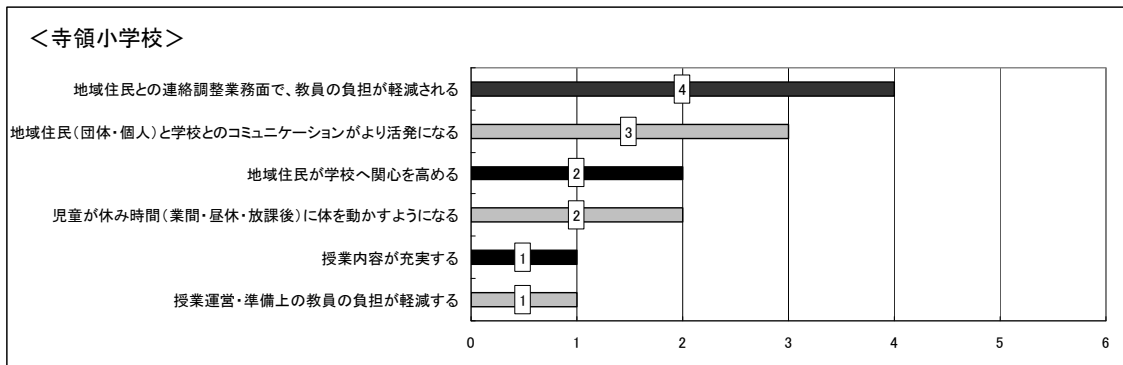
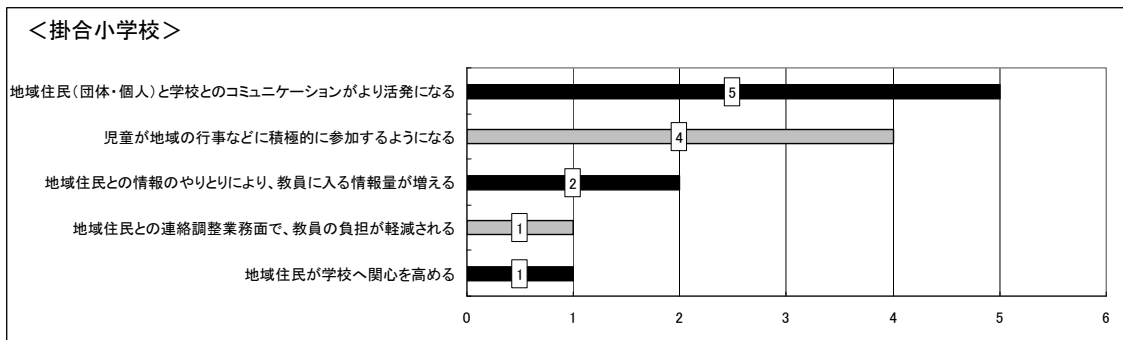
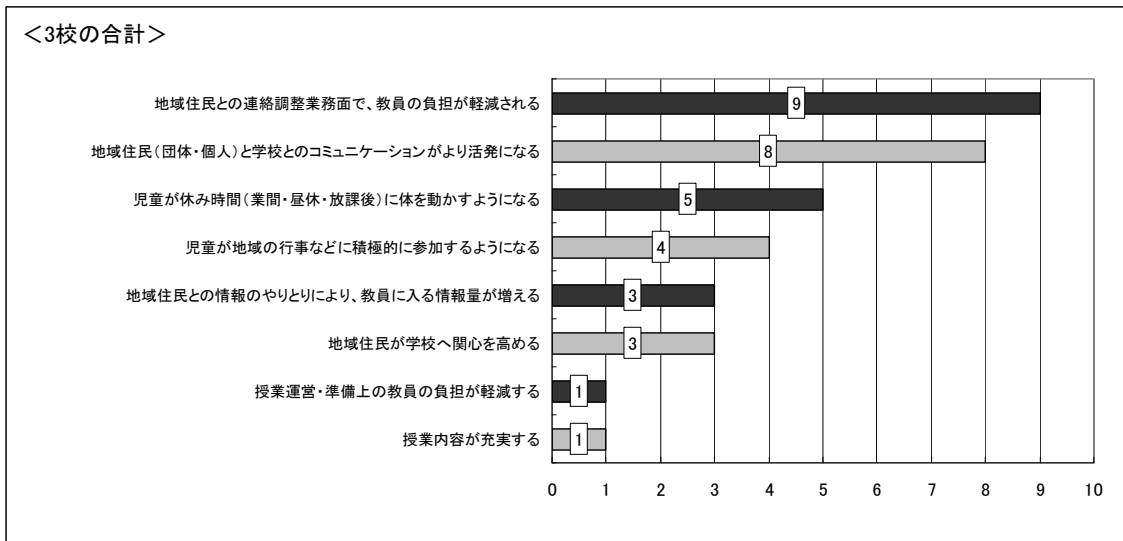
コーディネーターを採用するメリットについて4段階評価でたずねたところ、「地域住民との連絡調整業務面で、教員の負担が軽減される」が平均 3.6 ともっとも評価が高く、以下「地域住民と学校とのコミュニケーションがより活発になる」「児童が地域の行事などに積極的に参加するようになる」（いずれも平均 3.5）などの順となった（問D）。また、もっとも有効なメリットは問Dと同様に「地域住民との連絡調整業務面で、教員の負担が軽減される」であったが、これを学校別にみると、西小学校では「児童が休み時間（業間・昼休・放課後）に体を動かすようになる」、掛合小学校では「児童が地域の行事などに積極的に参加するようになる」の回答が相対的に多いなど、学校ごとに特徴がみられた（問E）。

【問D】この制度を通じて、専門人材を採用するメリットは何だと思いますか。以下のそれぞれの項目について、もっとも当てはまるものを選択肢の1~4からお選びください（○はひとつ）。（図表13）



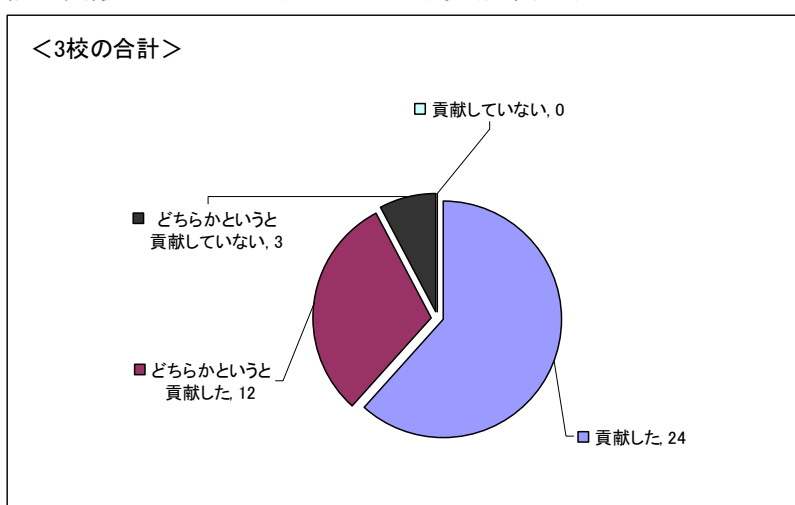
【注】平均：「当てはまる」を4点、「どちらかというと当てはまる」を3点、「どちらかというと当てはまらない」を2点、「当てはまらない」を1点として回答を数値化し、回答者の平均を算出したもの。

【問 E】問 D に示したメリットの中で、もっとも有効だと思うものについて、当てはまる番号をひとつ選び、以下にご記入ください。（図表 14）

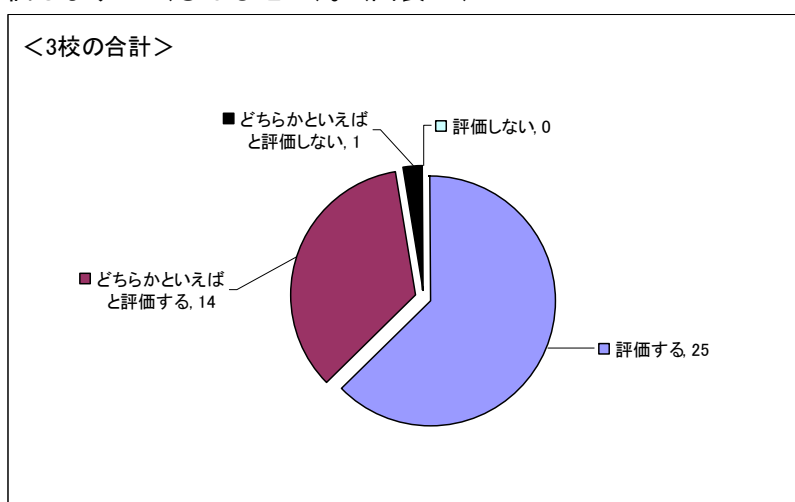


制度の趣旨に照らしてコーディネーターが貢献したかについてたずねたところ、およそ6割が「貢献した」と回答し、「どちらかという貢献した」を合わせると9割以上の教員がコーディネーターの活動を評価していた（問 F）。また、コーディネーター本人ではなく、この制度についての評価をたずねたところ、ひとりを除いて、「評価する」「どちらかといえば評価する」と回答しており、ほとんどすべての教員が制度に対して肯定的であることが明らかとなった（問 G）。

【問 F】「児童の健康・体力づくり向上につながる教育環境（ソフト・ハード）の充実を、学校と地域の連携を通じてはかる」。総合的に判断して、コーディネーターの活動は上記に貢献しましたか（○はひとつ）。（図表 15）



【問 G】「児童の健康・体力づくり向上につながる教育環境（ソフト・ハード）の充実を、学校と地域の連携を通じてはかる」ため、外部の専門人材を学校に登用する制度を評価しますか（○はひとつ）。（図表 16）



雲南市 学校と地域をつなぐ専門人材の導入に関するアンケート 集計結果_②自由記述

アンケートに対する自由記述による主な回答は以下のとおりであった。

【問 F】の回答理由（コーディネーターは「貢献した」「どちらかという貢献した」と回答した理由）

<主な回答>

1. 学校と地域をつなぐパイプ役となり、相互のコミュニケーションが向上
2. トップアスリートの招聘を通じて、スポーツに対する児童の意識を向上
3. 児童の健康・体力づくりの推進
4. 児童の健康・体力づくりにつながる用具の設置など、校内のスポーツ環境を整備
5. 教員の活動全般のサポート

<その他>

1. 地域の老人会との様々なプログラムを通じた多世代交流
2. 親子ストレッチや食育プログラムなど、親子で参加できる企画の実施
3. 児童の地域行事への参加促進

【問 G】の回答理由（制度を「評価する」「どちらかといえば評価する」と回答した理由）

<主な回答>

1. 児童の健康・体力づくりの専門人材が常駐することによる教員の負担減
2. 児童の健康・体力づくりについて、学校の施設や人員の枠を超えた活動の展開
3. 地域人材や他校での取り組みなどに関する情報の円滑な収集

<その他>

1. 教員では気付かない視点からの提案

【問 H】地域スポーツコーディネーター本人の活動について、期待することや改善すべきことは。

<主な回答>

1. 学内、学外への活動内容の PR
2. 児童の健康・体力づくりにつながる授業・行事・学校環境などに対する積極的な提案
3. 児童の運動能力の違いに配慮した環境整備などの工夫
4. 児童と関わる時間・機会の増加
5. 継続的な行事・プログラムの企画および情報提供
6. 体育の授業への積極的な関わり

<その他>

1. 児童の健康・体力に関する実態把握と結果に基づく企画

【問1】地域スポーツコーディネーター制度をより良くするために、期待することや改善すべきことは。

<主な回答>

1. 人材選びの重要性
2. 制度の継続
3. 地域の人材バンクの作成

<その他>

1. 適切な研修体制
2. 年間スケジュール上の基本項目の確立
3. 教員に対する制度の周知徹底



コーディネーターが企画した親子ストレッチ教室



コーディネーターは校内環境の美化にも貢献した

(2) 校長・地域関係者による評価（ヒアリング結果）

各校の校長・地域関係者に対してヒアリングを行った。（対象者は、図表5 p.9）ヒアリング結果をもとに笹川スポーツ財団がキーワードの抽出、発言内容のカテゴリ化などを行い、評価や改善点を「コーディネーター本人が貢献した点」「制度を評価する理由」「コーディネーター本人の活動に期待する／改善すべきこと」「制度に期待する／改善すべきこと」に分類し、以下の表にまとめた。

図表 17. 校長および関係者ヒアリング結果

（貢献・評価に類する回答は「○」、期待・改善に類する回答は「●」）

【問F】の回答理由（コーディネーター本人が貢献した点）	【問G】の回答理由（制度を評価する理由）
<p><校長> [主な回答] ○ 学校と地域をつなぐパイプ役となり、相互のコミュニケーションが向上 ○ トップアスリートの招聘を通じて、スポーツに対する児童の意識を向上 ○ 児童の健康・体力づくりの推進 ○ 児童の健康・体力づくりにつながる用具の設置など、校内のスポーツ環境を整備 ○ 教員の活動全般のサポート ○ コーディネーター本人の資質・能力の高さ ○ 「親学」プログラムの実施（家庭教育支援プログラム）</p> <p><交流センター> [主な回答] ○ 学校と地域をつなぐパイプ役となり、相互のコミュニケーションが向上 ○ 児童の健康・体力づくりにつながる用具の設置など、校内のスポーツ環境を整備 ○ 教員の活動全般のサポート</p> <p><その他の地域団体> [主な回答] ○ 学校と地域をつなぐパイプ役となり、相互のコミュニケーションが向上 ○ トップアスリートの招聘を通じて、スポーツに対する子どもの意識を向上 ○ 子どもの健康・体力づくりの推進 ○ 活動全般のサポート ○ コーディネーター本人の資質・能力の向上</p>	<p><校長> [主な回答] ○ 児童の健康・体力づくりの専門人材が常駐することによる教員の負担減 ○ 児童の健康・体力づくりについて、学校の施設や人員の枠を超えた活動の展開 ○ 地域人材や他校での取り組みなどに関する情報の円滑な収集 ○ 児童の健康・体力づくりの推進 ○ 教員では気付かない視点からの提案 ○ 地域・保護者の健康・体力づくりについての意識が高まる</p> <p><交流センター> [主な回答] ○ 制度を利用しての学校・地域間連携の深まり</p> <p><その他の地域団体> [主な回答] ○ 児童の健康・体力づくりについて、学校の施設や人員の枠を超えた活動の展開 ○ 事業の活性化による効果 ○ 地域への積極的な関わり</p>
<p>【問H】コーディネーター本人の活動について、期待することや改善すべきことは。</p> <p><校長> [主な回答] ● 学内、学外への活動内容のPR ● 児童の健康・体力づくりにつながる授業・行事・学校環境などに対する積極的な提案 ● コーディネーター本人の資質・能力の向上 ● 地域への積極的な関わり ● 児童の健康・体力に関する実態把握と結果に基づく企画 ● 体育授業への積極的な関わり</p> <p><交流センター> [主な回答] ● 学内、学外への活動内容のPR ● 地域課題に関する実態把握と結果に基づく企画 ● 児童と関わる時間・機会の増加 ● 交流センターへの積極的な関わり ● 子どもが地域行事に関わるための積極的な提案</p> <p><その他の地域団体> [主な回答] ● 学内、学外への活動内容のPR ● 児童の健康・体力づくりにつながる授業・行事・学校環境などに対する積極的な提案 ● 子どもや地域住民と関わる時間・機会の増加 ● 児童の健康・体力に関する実態把握と結果に基づく企画 ● 地域の人材発掘</p>	<p>【問I】制度をより良くするために、期待することや改善すべきことは。</p> <p><校長> [主な回答] ● 適切な研修体制 ● 教員・地域に対する制度の周知徹底 ● 地域・外部団体との連携強化 ● 広報活動の充実 ● 教科体育への関わり ● 学校教育活動への積極的な働きかけ ● 地域の人材バンクの作成 ● 児童の健康・体力づくりについて、学校の施設や人員の枠を超えた活動の展開 ● コーディネーターの介入度合と教員との役割分担</p> <p><交流センター> [主な回答] ● 地域の人材バンクの作成</p> <p><その他の地域団体> [主な回答] ● 地域住民に対する制度の周知徹底 ● 適切な研修体制</p>

(3) コーディネーター本人による評価（ヒアリング結果）

主観的な活動の評価として、地域スポーツコーディネーター本人を対象としたヒアリングを行った。ヒアリング結果をもとに笹川スポーツ財団がキーワードの抽出、発言内容のカテゴリ化を行った。結果は、以下のとおりである。

質問：これまでの活動で、一番やりがいを感じたのは？

回答：

- ご高齢の地域住民の方々との多世代交流プログラムを実施中、地域の方から「自分たちの生きがいになった」と伝えられたこと
- トップアスリートを招聘しての授業で、児童が「自分も将来トップアスリートになりたい」などの感想を述べたこと
- 放課後時間を活用して始めたスポーツ時間の開始時に、児童たちから「今日は何するの？」と質問されたとき

質問：制度の目的である『児童の健康・体力づくり向上につながる教育環境（ソフト・ハード）の充実を、学校と地域の連携を通じてはかる』に貢献したと思うか？

※自身が貢献したと思われる活動について回答

※回答を「児童の変化」「地域との関係構築」「教員・授業へのサポート」に3分類

回答：

【児童の変化】

- 自身が企画した放課後のスポーツ時間に、運動の得意・不得意関係なく多くの児童が参加するようになった。
- 児童の体力データをとったところ、成長がみられた。
- トップアスリートのパフォーマンスや伝統芸能に触れる機会に接し、目の色が変わった。
- 昼休みなどに一人で運動遊びが出来なかった低学年の児童が、一緒に遊ぶうち、自ら声をかけてくるようになった。

【地域との関係構築】

- 地域の方々から新たな企画の実施を求められるなど、声をかけられるようになった。
- スポーツ少年団と学校の接点となり、双方の情報のやりとりの円滑化、共同企画の実施に貢献した。
- 交流センター主催のイベントに児童の参加を促した。

【教員・授業へのサポート】

- 主に体育主任のアシスタントとして、体育の授業に数回関わった。総合学習の野外活動でもアシスタントを務めた。

- コーディネーターの活動への理解を深めてもらうため、主に授業以外の活動のサポートを務めた。

質問：自分の活動を、さらに充実・改善するとしたら？

※回答を「地域との関係構築」「教員・授業へのサポート」「個人のスキル」に3分類

回答：

【地域との関係構築】

- 本来、コーディネーターは地域住民に働きかけて、地域住民自ら学校の健康・体力づくり活動に協力してくれるように働きかけることが目的だが、そこには至らなかった。
- 交流センターとの連携・協力が十分に図れなかった。学校で交流センターの活動紹介をするなどにとどまり、新たな企画の提案や、共同企画の運営に協力を呼びかけるなどは出来なかった。
- 校区内の交流センターを回っての打合せや、センター主催の事業に顔を出すことなどが十分に出来なかった。初めてのことで、一つのことにかける時間のめどが立たなかった。
- 様々な地域団体がある中で、体育協会、生涯学習団体、女性部などには十分な関わりをもてなかった。
- 放課後教室は実施したが、平日に地域の方々と関わりをもつのは難しかった。
- 校区内に交流センターが複数あるので、全部に均等に関わろうとせず、年度当初に各センターの「主テーマ」を決めて関わるようにしたい。

【教員・授業へのサポート】

- 授業のサポートはほとんどしなかった。教員とのコミュニケーションを円滑にし、コーディネーターというポジションを理解してもらうために授業運営の手伝いをするにはあったが、児童の健康・体力づくりのためという本来目的に合う授業のサポートは十分ではなかった。
- 授業のサポートはあまりできなかった。担任教員の児童に対する影響力の大きさを学んだので、今後はもっと教員のニーズを聞いていきたい。
- とくに体育主任との間のコミュニケーションを密にして、ニーズを把握したい。その上で適切な協力をしていきたい。
- 児童の健康・体力づくりにつながる環境整備の着手が遅れた。事前に十分に準備して臨みたい。
- 校内での人間関係構築を最初の1年で終えているので、2年目はそこに割く分がなくなり、1年間の動きが分かるので、今以上の活動に取り組めると思う。

【個人のスキル】

- 人前で話をしたりするのが下手なので、コミュニケーション能力とプレゼン能力を伸ば

す研修を受けていきたい。

- 3校合同でのイベントや事業を打ち出したかったが出来なかった。そうした大きな企画を組み立てる能力がまだ身につけていないと感じる。

質問：これまで、A. コミュニケーション能力（他者とのコミュニケーションを深める）、
B. ニーズや課題を把握・分析する能力（地域・家庭における）C. 円滑化能力（学校と家庭&地域をつなぐ）の3つの能力向上を目的に研修を受講し、日々活動をしてきたが、現在の自身の能力評価および効果的と感じた研修内容は？

回答：

- A. については、研修で気づきを得て、それを日々の校内でのコミュニケーションに応用して生かすことができたという点で研修と日々の活動の両方が有効だった。
- 研修に刺激を受け、日々の活動に活かすという循環が能力向上に役立った。
- 能力を伸ばすという点では研修よりも日々の活動から得るところが大きかった。

【研修内容について】

- 富山県における総合型地域スポーツクラブの先進事例（地域住民とのコミュニケーションの図り方、関係諸機関との連携で行う健康・体力づくりに関する様々な取り組みなど）に学ぶ研修は、人と人を結びつけることの重要性など、大変参考になった。

質問：今後、コーディネーターの能力向上に必要な研修や取り組みを、提案するとしたら？

回答：

- 社会教育、生涯教育のそれぞれの先進事例を実際の現場を見て回り、良い面も悪い面も幅広く学ぶ研修が必要である。
- 様々な機会を通じてプレゼンテーションをする経験が必要。経験を踏まないと実力が身につかない。
- 研修で気づきを得て、それを日々の校内でのコミュニケーションに応用して活かすという研修と実践がかみ合う仕組みが有効と考える。

質問：この制度を、さらに充実・改善するために必要と思われることは？

回答：

- トップアスリートの招聘など、児童に「本物」に触れさせたいと考えた場合に、コーディネーター一人の情報・人脈だけでは限界があるため、そこをサポートする仕組みが必要。
- 平日の活動に外部の専門人材を招聘するのは容易ではない。
- 児童と一緒に体を動かすことが多いので、運動・スポーツが好きな人を選ぶことが必須と感じた。
- 制度導入の成果をはかるには、もう少し長いスパンで検証するのが有効と思われる。

- 地域の団体や個人とのコミュニケーションを良好に保つためには、担当する校区の広さなどを考慮した計画立案と説明が重要。



コーディネーターがつくった運動を促す仕掛け



コーディネーターが企画した放課後教室での1コマ

6. まとめと考察

「分析（検証）の方法」（p.7）で示したとおり、担当地域の特性や研修内容を踏まえた上で、コーディネーターの活動実績が、学校、地域の関係者にどう評価され、本人の評価といかに一致あるいは相違したかを分析し、考察を加えた。

コーディネーターがおかれた環境と活動への影響

コーディネーター3名が着任した地域の特性については、p.11に記載のとおりだが、中山間地に位置するという以外、人口、面積、人口密度などは全て異なる。特に、掛合小学校がある西部ブロックは他の2ブロックの約3~4倍の面積をもつ。また、児童数では寺領小学校がもっとも少なく、他の2校の2分の1以下の児童数（67名）となっている。こうした環境の違いは、コーディネーターの活動範囲やプログラム内容に少なからず影響を与えたことは容易に想像できる。各々の地域の関係者によるコーディネーターの活動に対する評価は後述するが、コーディネーター本人の資質や経験の違いもさることながら、地域の特性がそうした外部評価に何らかの影響を与えたであろうことは考慮すべき点である。コーディネーターの特性に関して、p.11に記載した内容以外に特筆すべきことはない。

総合計 180 時間の研修に対する自他の評価

p.12にあるとおり、3名のコーディネーターは、地域スポーツコーディネーターとして正式に着任する平成23年度の2年前より、コーディネーターとしての能力を高める研修を事前研修として受講した。

研修内容は、「学校教育の現状と学社融合の必要性」や「子どもとの関わり方」、「家庭教育支援プログラム」など、学校・家庭・地域の3者間をコーディネートし連携を進める能力を高めることを目的として実施された。3年間の研修時間の合計は、180時間である。

これらの研修が実際の活動にどう活かされたのかについて、コーディネーター本人にヒアリングしたところ、研修に学ぶところは多かったが、実際には研修で学んだ知識や技術より、そこで得た自分なりの気づきを日常の業務に応用して学ぶことのほうが効果的との回答がほとんどであった。また、今後の研修内容への要望としては、様々な機会を通じてプレゼンテーションを行う経験や、研修と日常業務を組み合わせる行動結果を検証する仕組みづくりなどがあげられた。

一方で、校長へのヒアリングでは、制度の改善点として「適切な研修体制」が複数名からあげられ、同様の指摘は、同僚教員のアンケート（自由記述）にもみられたことから、今後、より効果的な研修のあり方を検討する際には学校側、地域側のニーズに配慮することが重要と思われる。

同僚教員の高い評価と今後の課題

アンケートのまとめ (p. 34) でも触れたように、9 割以上の教員がコーディネーターの活動を前向きに評価し、制度についても肯定的であった。

コーディネーターが年間で関わった事業を分類すると、「学校外」で行う「健康・体力づくり以外」の事業（例えば交流センターとの多世代交流プログラムや、ふるさと教育プログラムなど）が約半分（81/164 事業）を占めており、学校と地域の連携を通じた児童の健康・体力づくりが主目的のコーディネーターが、専門分野以外の学外活動にもかなりの時間を費やしていることがわかる。

こうした状況を反映してか、コーディネーターの同僚教員に対するアンケートでは、本制度導入の「もっとも有効なメリット」として「地域住民との連絡調整業務面で、教員の負担が軽減される」が最上位に選ばれ、「児童が体育の授業に積極的に取り組むようになる」や「児童の体力が向上する」は選ばれなかった。今後は、制度導入の本来の目的や期待する成果を教職員全体と改めて共有した上で、関わる業務の内容、他の教職員との役割分担のあり方を協議することが有効と思われる。

一方で、コーディネーター本人へのヒアリングでは、「交流センターとの連携・協力が十分に図れなかった」「(交流)センター主催の事業に顔を出すことなどが十分には出来なかった」などのコメントが目立ち、同僚教員の前向きな評価に反して、コーディネーター本人たちは地域との連携については満足できるレベルではなかったとみていることがうかがえる。

コーディネーターの主な業務は活動実績からも分かるように、ほぼ毎日 1~2 回ある打合せや会議・行事等への参加、月平均 10 事業を超える学外での事業に対する関与である。仮に教員が通常の業務に加えて、これだけの頻度で外部とコミュニケーションを図らなければならないとしたら、相当な負担増となることが予想される。同僚教員が制度導入のもっとも有効なメリットとして、地域住民との連絡調整業務をあげた理由はここにあると推察される。アンケートの自由記述回答でも、本制度を「評価」「どちらかといえば評価」とした理由の最上位に「児童の健康・体力づくりの専門人材が常駐することによる教員の負担減」があげられており、コーディネーター制度の意義を考える上で、教員では担いきれない役割が高く評価されたことは特筆すべき点である。

たんなる「パイプ役」を超えた存在に

アンケートで、コーディネーター本人の活動が児童の健康・体力づくりに「貢献した」「どちらかという貢献した」と回答した教員にその理由をたずねたところ、「学校と地域をつなぐパイプ役としての貢献」がもっとも多かった。次いで「トップアスリートの招聘が児童のスポーツに対する意識の向上につながった」があげられた。いずれも、学校と地域をつなぐパイプ役としての活動に対する前向きな評価だが、これについてはコーディネーター本人もヒアリングで、「地域の方々から声をかけられるようになった」あるいは「トップ

アスリートのパフォーマンスに触れて、「児童の目の色が変わった」などを貢献できた点としてあげている。

一方で、前述のとおり、コーディネーター本人は一定程度の成果は実感しているものの「地域住民自ら学校の健康・体力づくり活動に協力してくれるように働きかけることを目指したが出来なかった」など、目指していた地域との連携のレベルが、たんに「パイプ役」となることではなかったことから、期待した成果は得られなかったと自己評価している。

問われる授業への関わり方

また、同僚教員がコーディネーターの貢献理由の 2 番目にあげた「トップアスリートの招聘が児童のスポーツに対する意識の向上につながった」についても、コーディネーター本人としてはその部分は出来たと感じている半面、普段の授業を通じて児童の意識向上を図るという点では不十分だったと自己評価しており、授業への関わり方も今後の課題と思われる。

ただ、コーディネーター側には「学校と地域、家庭をつなぐのがコーディネーターの本来業務であるところ、授業のサポートにどれだけ関与すべきかの判断が難しい」との思いもあり、今後、制度として、この点をいかに明確化できるかは重要なポイントである。

より積極的な「PR」「提案」「関わり」を

同僚教員が指摘するコーディネーターに対する今後の期待や改善点としては、「学内、学外への活動内容へのPR」「児童の健康・体力づくりにつながる授業・行事・学校環境などに対する積極的な提案」「児童と関わる時間・機会の増加」などがあげられ、コーディネーター側に、より積極的な「PR」「提案」「関わり（児童への関わりも含む）」を求めている。「PR」「提案」の重要性については、コーディネーター本人もヒアリングで、「様々な機会を通じてプレゼンテーションをする経験が必要」「研修で気づきを得て、それを日々の校内でのコミュニケーションに応用して活かす」などを、今後必要な研修や取り組みとしており、教員側のニーズを自覚していることがうかがえる。同僚教員とのより緊密なコミュニケーションは、今後の重点課題の一つと思われる。

「個人」の評価 ≠ 「制度」の評価

「関係者による評価」として、3校の校長とブロック内の交流センター関係者、幼稚園関係者、スポーツ少年団関係者などにヒアリングを行った。ヒアリング結果を、大きく「コーディネーター本人」と「制度」への「前向き評価」および「改善点」の4分類に分けた。

その結果、校長のコーディネーター本人および制度に対する前向きな評価に関するヒアリング結果は同僚教員のアンケート結果とほぼ同様であり、制度についても肯定的な評価が得られた。一方で、コーディネーター本人に対する改善点として、「本人の資質・能力の向上」があげられており、管理職としての視点がうかがえた。

「制度」に対する改善点では複数の校長が「適切な研修体制」をあげ、「人材選びの重要性」を指摘した同僚教員のアンケート結果（自由記述）と同様、「人」が制度の成否を左右するとの感想を抱いたことが推察される。この点については、制度自体が初めての導入であり、地域スポーツコーディネーターも一人しかみていないことから、本人の資質やパフォーマンスに表れる部分以外の制度の改善点は指摘しにくかったと想像する。数年後に、同様の検証を行うことが有効と思われる。

地域側も求める積極的な PR

交流センターおよびそれ以外の地域関係者へのヒアリングでは、コーディネーター本人が貢献した点として、どちらも「学校と地域をつなぐパイプ役となった」ことを前向きに評価している。この点は、同僚教員へのアンケート結果と同様であった。

一方、改善点としてはどちらも「学内、学外への活動内容の PR」をあげ、さらに「地域課題に関する実態把握と結果に基づく企画」や「児童の健康・体力づくりにつながる授業・行事等への積極的な提案」などをあげており、「パイプ役にはなれたものの期待したレベルまでの関係構築はできなかった」と答えたコーディネーター本人のヒアリング結果を裏付けるかたちとなった。ただ、前述のとおり各コーディネーターの受け持つブロックや学校の規模は異なることから、適切な周知広報活動の確立にあたっては、それぞれの担当ブロックの特性に対する留意が必要である。

コーディネーターをバックアップする体制を

さらに、制度の改善点としては、地域側から「地域の人材バンク（コーディネーターが活用できる専門人材に関するデータベース）の作成」「地域住民に対する制度の周知徹底」などが指摘された。この点については、コーディネーター本人もヒアリングで「児童に『本物』に触れさせたいと思った場合に、コーディネーター一人の情報・人脈だけでは限界があるため、そこをサポートする仕組みが必要」「平日の活動に外部の専門人材を招聘するのは容易ではない」などと答えており、行政・民間を問わず人材発掘や人脈構築の面でコーディネーターをバックアップする体制が必要であることが浮き彫りとなった。

7. おわりに

雲南市が地域スポーツコーディネーター制度を導入したのは、学校体育の充実を目標に、小中学校の9年間のみならず、幼児期の3年間を加えた12年間をトータルで考えて、すべてを見渡せるポジションに「人」を配置することが必要だと考えたからである。調査結果が示すとおり、3校のコーディネーターは、スポーツ・遊びの環境作りや学校と外部人材の結び付けなど、学校と地域の「パイプ役」としてほぼ期待どおりの成果をあげることができた。

今後は、すべての小学校に配置している地域コーディネーター（学校支援本部事業による配置）、すべての中学校に配置している教育支援コーディネーター（市職員）との連携を通じて、地域と学校、学校と学校（小学校と幼稚園、小学校と中学校）のつながりをさらに深め、市内全域で子どもの健康・体力づくり活動が活発になるよう、地域スポーツコーディネーターの活動のさらなる充実と制度の周知・啓発に努めたい。

（雲南市教育委員会教育長 土江 博昭）

笹川スポーツ財団は平成23年7月に、「教育実習を長期化し、地域スポーツ振興の現場を経験した教員を養成するべき」との政策提言を発表した。

これは、豊かなスポーツライフの基盤形成につながる学校のスポーツ環境の充実には、学校体育の指導者が児童・生徒の運動意欲を高めるスキルのみならず、スポーツの多様な楽しさを家庭や地域の協力者との連携を通じて創出、提供する能力が重要との考えに基づいた。教育実習の長期化により、教員志望者が地域のスポーツ振興関係者、保護者らと関われる機会を増やし、現場の対応力や他者とのコミュニケーション能力をより高められるようにするべきというのが提言の趣旨である。

この提言が目指すところは、今回、我々が検証した雲南市の地域スポーツコーディネーター制度の目的と合致している。初めての試みということもあり、制度の目的、コーディネーター本人の活動ともに理解が十分に浸透したとは言い切れないものの、ほぼ全ての関係者から学校・地域間のパイプ役としての働きに高い評価を得られたことは、大きな成果といえる。

今回指摘された課題が改善されれば、同様に学校・家庭・地域の連携を通じた児童・生徒の豊かなスポーツ環境整備を目指す他の自治体のモデルとなる可能性は十分にあると思われる。

（笹川スポーツ財団）

**「地域スポーツコーディネーター制度」
の導入効果に関する研究 報告書**

2012年3月発行

発行者 雲南市教育委員会／公益財団法人 笹川スポーツ財団

問合せ先 〒699-1392 島根県雲南市木次町木次 1013-1

Tel 0854-40-1073 Fax 0854-40-1029

e-mail shakai-kyouiku@city.unnan.shimane.jp

URL <http://www.city.unnan.shimane.jp/kyouiku/index.html>

無断転載、複製および転訳載を禁止します。引用の際は本書が出典であることを必ず明記してください。
本事業は、ポートルースの交付金による日本財団の助成金を受けて実施しました。

雲南市教育委員会

〒699-1392 島根県雲南市木次町木次 1013-1

Tel 0854-40-1073 Fax 0854-40-1029

e-mail shakai-kyouiku@city.unnan.shimane.jp

URL <http://www.city.unnan.shimane.jp/kyouiku/index.html>